

Ⅲ.診療科活動状況

2019 年 4 月～2020 年 3 月

内科

1. 医師体制

役職名等	氏名 (P207参照)
内科部長、消化器内科科長	忍 哲也
内科副部長、救急・総合内科科長	守谷 能和
内科診療部長	辻 忠男
内科診療部長、糖尿病内科科長	村上 哲雄
循環器内科科長	金子 史
呼吸器内科科長	原澤 慶次
透析科科長、病棟医長	肥田 徹
病棟医長	山田 歩美
技術部長	市川 篤
医員	久志本舞衣子 佐藤 順紀 松村 憲浩 吉田 和博
総合内科専攻医	松村 憲浩
川口診療所・所長	内山 隆久
おおみや診療所・所長	山田 晃務
※他科と重複している場合があります	

2. 初期研修医

2018年卒 (7名)	遠藤 聖英、大和田 舞、 開原 英範、福田 友樹、 村田 俊介、山本 茂輝 山崎 駿気
2019年卒 (8名)	黒須 友理香、古関 匠、 鷹尾 純、瀧井 未来、 田中 栞、外川 加奈子 富山 桃子、橋本 弥生

3. 概要、特徴、特色

- (1) 地域医療の最前線で、いかなる患者様にも対応できる総合力を持つ内科でありたいと考えて診療を行っています。
- (2) 初期研修医は3つの内科病棟(C2病棟・C5病棟・D4病棟)のいずれかに所属して研修を開始します。内科は、初期研修医に基本的な診療スタイルを身につけさせる役割を担っています。

4. 実績(2019年4月～2020年3月)

(1) 外来科別患者数

	実患者数	患者のべ数
急患内科	13,488	32,446
循環器内科	1839	8,904
消化器内科	3,798	12,376
糖尿病内科	2,172	13,290
呼吸器内科	1,281	6,838
腎臓内科(透析)	414	3,068
甲状腺内科	687	2,984
血液内科	232	1,336
神経内科	468	2,108
救急・総合内科	1,612	1,791

(2) 入院医療

3病棟を総合内科病棟と位置づけています。C2病棟は消化器内科、C5病棟は糖尿病内科・呼吸器内科、D4病棟は循環器内科・腎臓内科(透析)の患者様が多いという特徴があります。

(月平均)

	C2病棟	C5病棟	D4病棟
病床数	60床	50床	46床 HCU4床
新入院患者数	136.7人	112人	246人
平均在院日数	9.2日	11.1日	9.9日
病床利用率	83.5%	84.4%	91.6%

※病棟の詳細は(P124、P127、P129参照)

5. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表(P180参照)

4月	・当院の高齢者悪性リンパ腫に対する化学療法の治療実績 ・慢性的な嘔気・嗅覚異常を呈した頭蓋咽頭腫に伴う続発性副腎不全の1例
8月	ワークショップ「お金が払えないといわれたら、あなたはどのようにする？」
11月	・お元気ですか訪問&何でも相談会 ・魚骨による腸管穿孔を保存的に治療した1例
2月	・総胆管結石の1例

6. 次年度に向けて

地域住民の方々、開業医や近隣医療機関の先生方からの期待が大きくなっていると感じています。一人一人の力量、内科としての総合力をあげていきたいと考えています。

■診療実績(診断群分類6桁別、2019年退院患者) 195傷病中上位75%

*医科点数表Kコード

傷病 6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あ り症例*	構成 比%	累積 %
040080	肺炎等	276	78.0	14.5	116	131	2	11%	10.9%
110310	腎臓または尿路の感染症	156	74.4	13.0	63	65	5	6%	17.0%
040081	誤嚥性肺炎	144	84.0	20.3	82	77	2	6%	22.7%
010060	脳梗塞	139	75.4	28.2	69	52	2	5%	28.1%
050130	心不全	133	79.9	14.0	67	71	1	5%	33.4%
060340	胆管(肝内外)結石、胆管炎	126	77.0	12.1	37	56	99	5%	38.3%
060102	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	65	64.4	9.0	20	26	16	3%	40.9%
060350	急性膵炎	53	61.0	11.4	17	29	25	2%	43.0%
080010	膿皮症	49	69.5	12.6	16	21	2	2%	44.9%
040120	慢性閉塞性肺疾患	48	79.8	16.8	26	22	1	2%	46.8%
030400	前庭機能障害	47	70.3	4.5	37	4	1	2%	48.6%
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症(その他良性疾患)	47	69.9	8.1	20	20	7	2%	50.5%
060360	慢性膵炎(膵嚢胞を含む。)	39	57.2	11.8	1	33	32	2%	52.0%
040100	喘息	38	67.1	12.1	10	16	0	1%	53.5%
180010	敗血症	38	77.4	17.6	28	22	3	1%	55.0%
060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄(穿孔を伴わないもの)	37	72.9	10.8	18	12	22	1%	56.5%
060300	肝硬変(胆汁性肝硬変を含む。)	35	69.1	16.2	15	21	8	1%	57.8%
040110	間質性肺炎	32	78.0	25.0	11	17	0	1%	59.1%
180040	手術・処置等の合併症	31	77.1	12.0	14	24	3	1%	60.3%
130090	貧血(その他)	30	73.9	13.4	6	18	3	1%	61.5%
040150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	28	74.4	24.6	14	19	5	1%	62.6%
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	28	70.9	16.7	6	15	17	1%	63.7%
180030	その他の感染症(真菌を除く)	25	60.7	10.2	9	9	0	1%	64.7%
060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	24	74.8	8.1	7	6	4	1%	65.6%
010040	非外傷性頭蓋内血腫	23	74.3	30.4	10	6	0	1%	66.5%
060380	ウイルス性腸炎	22	56.6	6.1	9	4	0	1%	67.4%
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	21	75.8	26.0	5	14	12	1%	68.2%
060280	アルコール性肝障害	21	59.6	14.0	8	8	1	1%	69.0%
100393	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害	21	76.0	12.3	14	10	1	1%	69.9%
010230	てんかん	20	73.5	10.6	17	14	0	1%	70.7%
060020	胃の悪性腫瘍	20	76.0	13.5	7	12	4	1%	71.4%
060190	虚血性腸炎	20	65.2	7.8	4	4	0	1%	72.2%
100380	体液量減少症	20	78.4	11.2	9	9	0	1%	73.0%
110290	急性腎不全	20	74.2	16.5	10	8	0	1%	73.8%
040070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	18	73.4	9.2	8	5	2	1%	74.5%
040040	肺の悪性腫瘍	17	75.7	29.8	8	9	0	1%	75.2%
060335	胆嚢水腫、胆嚢炎等	17	67.4	13.1	7	6	8	1%	75.8%
	その他の傷病	614			248	235	65	24%	100.0%
計		2,542	72.9	15.3	1,073	1,130	353		

循環器内科

1. 医師体制

役職名等	氏名(P207参照)
副院長	福庭 勲
科長	金子 史
秩父生協病院・院長	山田 昌樹
非常勤	5名

2. 概要、特徴、特色

当院では高血圧症・虚血性心疾患(狭心症など)・不整脈・心不全・弁膜症などを中心に循環器疾患全般にわたって診療を行っています。

外来では心電図検査・胸部レントゲン検査・心臓超音波検査・ホルター心電図検査・トレッドミル運動負荷心電図検査、心臓CT検査などを行い、心臓病の早期発見に努めています。

狭心症などの虚血性心疾患が疑われる場合は、診断の精度を高めるために、心臓カテーテル検査(通常2泊3日入院)を行います。ほとんどの症例で体に負担が少ない手首からの心臓カテーテル検査を行っています。また、入院せずに外来で精密検査を行うことできるように、心臓冠動脈CT検査を導入しています。

心臓カテーテル検査などで冠動脈の狭窄が発見された場合は心臓カテーテル治療(経皮的冠動脈ステント留置術など)を行っています。バルーンを用いて血管の狭窄を拡張したり、金属でできた金網(ステント)を植え込む治療を行います。心臓カテーテル検査や治療では、クリニカルパスを用いて、安全な検査・治療に努めています。

不整脈では、ペースメーカー手術も行っています。退院後はペースメーカー外来(予約制)で定期的に術後の経過をみせていただいています。

心臓病の予防も重要な分野として、医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリなどを含めて取り組んでいます。

また、心臓病を悪化させる原因として喫煙や睡眠時無呼吸症候群などがあり、禁煙外来や息いき外来(睡眠時無呼吸症候群)とも連携をとって、診療を行っています。

3. 診療実績

(1) 外来診療

- ①主たる疾患:高血圧・心不全・虚血性心疾患・不整脈・弁膜症・心筋症・閉塞性動脈硬化症など
- ②手術適応症例は心臓外科外来(非常勤)にて診療
- ③ペースメーカー外来(月1回)

(2) 治療

- ①経皮的冠動脈ステント留置術11例
 - ・病変部位(重複含む):LAD5例、LCX2例、RCA2例、
 - ・ISR病変:1例(LAO1例)
- ②下肢血管拡張術3例
 - ・病変部位(重複含む):SFA5例、CTO病変2例
- ③ペースメーカー移植術18例
 - ・不整脈:完全房室ブロック9例(DDD6例、VVI3例)、高度房室ブロック3例(VVI2例、DDD1例)
 - 洞不全症候群5例(VV I 5例)
 - 心房細動1例(VVI1例)
- ④ペースメーカー交換術13例

■診療実績(診断群分類6桁別、2019年退院患者)

*医科点数表 Kコード

傷病 6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あり 症例*	診断 検査	計画的 繰り返し 入院	その他 の加療
050030	急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞	4	81.3	18.8	2	1	0			4
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	130	72.2	3.8	4	63	13	108		22
050060	心筋症(拡張型心筋症を含む。)	3	76.7	5.0	0	2	0	2		1
050070	頻脈性不整脈	10	80.3	14.9	3	6	0			10
050080	弁膜症(連合弁膜症を含む。)	10	71.0	9.1	0	6	0	3		7
050090	心内膜炎	3	78.7	11.3	0	2	0			3
050130	心不全	146	79.7	14.0	67	80	1			146
050140	高血圧性疾患	12	68.0	9.4	5	5	0	1		11
050162	破裂性大動脈瘤	1	81.0	5.0	1	0	0			1
050170	閉塞性動脈疾患	35	71.7	12.9	2	16	6	16		19
050180	静脈・リンパ管疾患	9	66.6	24.1	1	2	2			9
050190	肺塞栓症	1	87.0	21.0	0	0	0			1
050200	循環器疾患(その他)	3	82.0	14.3	2	2	2			3
050210	徐脈性不整脈	28	81.3	10.7	1	11	27		3	25
050340	その他の循環器の障害	2	84.5	34.0	0	2	0			2
	計	397	75.8	10.4	88	198	51	130	3	264

■主な処置(2019年1月～12月)

診療報酬 区分番号	行為名称	件数
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術 その他のもの	13
K5972	ペースメーカー移植術 経静脈電極の場合	17
K597-2	ペースメーカー交換術	12
K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	5
K616-4	経皮的シャント拡張術・血栓除去術	72
	下大静脈フィルター留置術	1

■検査実績

検査名	件数
心臓カテーテル検査(PCI:13件除く)	167
心臓超音波検査(UCG)	3,548
ホルター心電図	944
トレッドミル	155
経食道エコー検査	14
心臓CT検査	166
体内ペーシング	29
体外ペーシング	9
血管内超音波検査(IVUS)	11

呼吸器内科

1. 医師体制

役職名等	氏名 (P207参照)
科長	原澤 慶次
技術部長	市川 篤
医員	草野 賢次
熊谷生協病院・副院長	宮岡 啓介
非常勤	2名

※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

地域の中核病院たるべく呼吸器科領域を幅広く診療しています。一般的な肺炎診療から、非結核性抗酸菌症や排菌のない結核症などといった感染性疾患や、慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息といった気道疾患、間質性肺疾患、肺がんなどに対する診療を外来・病棟で展開しています。外科とも連携し、肺がん手術のみならず、気胸や膿胸などといった炎症性疾患、胸腔鏡下肺生検なども行っています。

また、当院呼吸器内科の特色の一つはコメディカルスタッフとの協力です。慢性閉塞性肺疾患患者が中心ですが、リハビリテーション部門とも連携して外来呼吸リハビリテーションを行っています。

日本呼吸器学会認定施設

3. 診療実績

(1) 外来診療 (2019年4月～2020年3月)

実患者数	のべ患者数
3,798人	6,838人

(2) 病棟診療

常勤医師2名で担当しています。肺炎や慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息などの気道疾患、間質性肺炎、肺癌などを扱っています。

(3) 化学療法患者数 20人

(4) 検査・手術等

処置検査	件数
気管切開術	8人
新規在宅人工呼吸器管理	14人
気管支鏡検査	89人
在宅酸素療法新規導入	94人
胸腔穿刺	1人
局所麻酔下胸腔鏡	3人

(5) 呼吸器医療チーム (P176参照)

4. 教育・研修・研究活動

(1) 学術・研究等の発表 (P180参照)

5月	肺癌を合併した抗OJ抗体陽性問題
7月	塩素系洗剤吸入による急性肝障害の1例
11月	胃がんによるPTTMの剖検例

※さいたま赤十字病院の症例

(2) 講演会活動等 (P188参照)

1月	高齢者の肺炎について
----	------------

5. 次年度に向けて

引き続き年1回、地域住民に向けて慢性閉塞性肺疾患あるいは気管支喘息について講習会を開催し、積極的に地域住民の健康活動を啓蒙していきます。

■診療実績(診断群分類6桁別、2019年退院患者)

*医科点数表Kコード

傷病 6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術 あり症 例*	診断 検査	計画的 繰り返し 入院	その他 の加療
040040	肺の悪性腫瘍	66	73.1	13.8	9	38	1	24	15	27
040050	胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	6	67.0	21.7	1	0	0		2	4
040070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	18	73.4	9.2	8	5	2			18
040080	肺炎等	285	77.8	14.3	118	137	2			285
040081	誤嚥性肺炎	144	84.0	20.3	82	77	2			144
040090	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気 道感染症(その他)	16	79.0	13.9	8	5	0			16
040100	喘息	38	67.1	12.1	10	16	0			38
040110	間質性肺炎	54	73.6	19.1	11	24	0	10		44
040120	慢性閉塞性肺疾患	52	79.3	16.5	26	23	1			52
040130	呼吸不全(その他)	5	87.8	8.8	2	3	0		1	4
040150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	30	74.5	26.5	14	21	5			30
040151	呼吸器のアスペルギルス症	4	78.3	36.0	2	1	0			4
040160	呼吸器の結核	3	73.7	27.3	1	1	0			3
040170	抗酸菌関連疾患(肺結核以外)	6	80.3	21.8	3	3	1	2	1	3
040180	気管支狭窄など気管通過障害	1	65.0	11.0	1	0	0			1
040190	胸水、胸膜の疾患(その他)	6	75.2	26.5	0	3	0			6
040200	気胸	15	57.3	16.9	2	4	0			15
040210	気管支拡張症	2	87.5	17.0	1	1	0			2
04026x	肺高血圧性疾患	2	67.0	16.5	0	1	0			2
040310	その他の呼吸器の障害	2	50.0	31.5	0	0	0			2
計		755	77.1	16.6	299	363	14	36	19	700

消化器内科

1. 医師体制

役職名等	氏 名 (P207参照)
院長	増田 剛
院長補佐	高石 光雄
副院長	小野 未来代
副院長、内科部長、消化器内科科長	忍 哲也
内科診療部長	辻 忠男
内科副部長、救急・総合内科科長	守谷 能和
消化器科医長	田代 興一
医員	大石 克巳 孫 国東

※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

- (1) 地域に密着した急性期病院の消化器内科としての役割を果たすべく診療に当たっています。
- (2) 1次2次を中心とした救急車搬入台数は年間4,000件に及び、消化管出血や黄疸・胆管炎の患者様も数多く来院されるため、救急医療における消化器内科医の役割は大きいです。
- (3) 上下部消化管内視鏡検査、内視鏡的胆膵管造影および関連処置、超音波内視鏡検査、治療内視鏡を行っています。従来の大腸ポリープに対する内視鏡的粘膜切除術(EMR)に加えて上部下部早期癌に対する粘膜下層剥離術(ESD)の件数も増加しています。緊急胆道ドレナージも積極的にを行っています。膵石治療の経験豊富な辻忠男医師の指導の下、慢性膵炎の診療実績は日本屈指となっております。
- (4) 消化器専門外来では炎症性腸疾患、慢性肝炎・肝硬変、肝細胞癌などの慢性期管理を行っています。B型・C型慢性肝炎への経口抗ウイルス治療の件数や、炎症性腸疾患へのバイオ製剤投与実績も増加しています。
- (5) 医局が同一である強みを活かして外科と緊密に連携を取り、必要な場合はスムーズに手術まで繋げています。
- (6) 癌化学療法を受ける患者様も年々増加しており、カンサーボードを行って方針を検討しています。

3. 診療実績

(1) 検査・処置数

検査・処置	件数
上部消化管内視鏡検査	8,066
上部(悪性)ESD	49
上部(良性)EMR	1
下部消化管内視鏡検査	2,005
下部(悪性)ESD	11
下部(悪性)EMR	21
下部(良性)EMR	565
胆道系検査・処置	472
PEG交換	68
PTEG交換	6
PEG造設	19
腹部アンギオ	2
PEIT	2
TAE	22
EIS	7
EVL	6
止血術	29
食道ステント	3
食道拡張	2
肝生検・その他の生検	9
吻合部拡張術	16
穿刺(膿瘍・胆嚢)	58
ラジオ波焼灼	1
超音波内視鏡検査	78
胆道ESWL	5
膵石ESWL(一連)	522

B型肝炎(核酸アナログ治療)	43
C型慢性肝炎(経口治療)	26

(2) 消化器内科医療チーム(P176参照)

4. 教育・研修・研究活動

(1) 学術・研究等の発表(P180参照)

2月	・当院でのC型肝炎治療の変遷とDAA治療の副作用について
5月	・始動した川口市胃がん内視鏡検診 ～初年度の到達と次年度(二年目)への課題について
11月	・Endoscopic Treatment of Pancreatic Diseases Via Duodenal Minor Papilla-135c case

(2)講演会活動等(P188参照)

2019年

1月	・肝臓のエコー
2月	・認知症の話 ・川口市胃がん内視鏡検診初年度を終えての問題点(次年度への課題)
3月	・勉強会の中で強く印象に残った肝胆膵症例～エコー画像診断の最新の話～ ・皆で楽しく学ぶエコー研究会
5月	・胆石から胆嚢癌・胆管癌までー私の持っているよりすぐりの画像ー
10月	・地域医療の現状と医療を診る視点～急性期病院の現場から ・脂肪肝 ・膵疾患の診断はUSから始まる～USは膵疾患の一番大事な診断法です～
2月	・アルコール性肝障害

(3)著書・論文・寄稿等(P194参照)

当院でのC型肝炎治療の変遷とADD治療の副作用について

妊婦に対する消化器内視鏡診療

2年目を歩む胃がん内視鏡検診、導入から今日に至るまで

Cancer gland rupture as a potential risk factor for lymph node metastasis in early colorectal adenocarcinoma with deep submucosal invasion

Endoscopic Treatments of Pancreatic Incomplete Divisum (PID) in 20 Cases—Especially About Our Procedures: Rendezvous Pre-Cut Method and Reverse Ballom Method

Endoscopic treatment of pancreatic diseases via Duodenal Minor Papilla: 135 cases treated by Sphincterotomy, Endoscopic Pancreatic Duct Ballom Dilation (EPDBD), and Pancreatic Stenting (EPS)

第1回人権としての社保運動交流集会開催にあたって

(共著)「医師たちが見たキューバ医療のいま 60年間大切にしてきたこと～いのち～」

■診療実績(診断群分類6桁別、2019年退院患者)

*医科点数表 Kコード

傷病 6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術 あり 症例*	診断 検査	計画的 繰り返し 入院	その他 の加療
060010	食道の悪性腫瘍(頸部を含む。)	10	67.5	11.9	0	5	3	1		9
060020	胃の悪性腫瘍	72	74.6	8.4	7	25	44	3	8	61
060030	小腸の悪性腫瘍、腹膜の悪性腫瘍	1	69.0	2.0	0	0	0	1		
060035	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍	32	72.2	8.8	2	14	17	1	1	30
060040	直腸肛門(直腸S状部から肛門)の悪性腫瘍	13	64.8	4.9	1	2	6			13
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む。)	33	75.1	13.7	8	18	18	1	4	28
060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	16	78.1	12.3	2	8	8	2		14
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	82	72.7	11.2	5	48	20	44	9	29
060080	食道の良性腫瘍	2	45.0	1.0	0	1	0	2		
060090	胃の良性腫瘍	9	66.9	3.9	1	6	2	6		3
060100	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。)	529	69.4	2.2	0	175	496	29		500
060102	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	73	65.9	8.3	20	31	16	8		65
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症(その他良 性疾患)	54	69.6	7.9	20	24	9	1		53
060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄(穿孔 を伴わないもの)	41	73.0	12.0	18	14	24			41
060141	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄(穿孔 を伴うもの)	1	48.0	17.0	0	1	1			1
060160	鼠径ヘルニア	2	93.0	5.0	0	0	0			2
060170	閉塞、壊疽のない腹腔のヘルニア	1	80.0	7.0	1	0	0			1
060180	クローン病等	6	81.3	17.3	5	4	3			6
060185	潰瘍性大腸炎	10	40.2	14.6	0	3	0	1		9
060190	虚血性腸炎	22	66.4	9.4	4	6	1			22
060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	24	74.8	8.1	7	6	4			24
060230	肛門周囲膿瘍	1	97.0	8.0	1	1	0			1
060270	劇症肝炎、急性肝不全、急性肝炎	4	50.3	10.5	1	2	0			4
060280	アルコール性肝障害	23	60.2	14.2	8	9	1			23
060290	慢性肝炎(慢性C型肝炎を除く。)	5	63.0	14.4	0	2	0	2		3
060295	慢性C型肝炎	1	46.0	17.0	0	1	0			1
060300	肝硬変(胆汁性肝硬変を含む。)	48	67.1	15.0	15	28	16	1		47
060310	肝膿瘍(細菌性・寄生虫性疾患を含む。)	7	75.1	23.9	2	3	1			7
060320	肝嚢胞	4	77.0	10.0	0	3	2			4
060330	胆嚢疾患(胆嚢結石など)	3	67.0	6.7	1	1	1			3
060335	胆嚢水腫、胆嚢炎等	21	67.9	11.0	7	10	9	3		18
060340	胆管(肝内外)結石、胆管炎	149	76.0	11.5	37	69	121			149
060350	急性膵炎	58	60.7	17.4	17	34	30			58
060360	慢性膵炎(膵嚢胞を含む。)	162	57.4	9.6	1	136	143	6		156
060370	腹膜炎、腹腔内膿瘍(女性器臓器を除く。)	9	63.7	54.9	3	4	2			9
060380	ウィルス性腸炎	24	58.3	6.7	9	6	0			24
060390	細菌性腸炎	14	49.2	10.2	4	3	0			14
060391	偽膜性腸炎	3	80.7	12.0	1	2	0			3
060570	その他の消化管の障害	7	70.3	9.9	1	4	1			7
計		1,576	68.3	8.1	209	709	999	112	22	1,442

糖尿病内科

1. 医師体制

役職名等	氏名(P207参照)
内科診療部長、科長	村上 哲雄
医長	島村 裕子
医員	高橋 きよ子 川合 汐里 坂下 杏奈
さいわい診療所・所長	関口 由希公
非常勤	1名
※他科と重複する場合があります	

糖尿病学会認定研修指導 医3名

糖尿病学会専門医 4名

院内CDEJ (Certified Diabetes Educator of Japan) 10名

2. 概要、特徴、特色

糖尿病領域を中心とした専門的診療を行っています。1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病を含め、各種病態患者の診療を行い、健康寿命の延伸を治療目標にしています。糖尿病を併発している外科領域の患者の血糖コントロールについても、連携をしています。他の医療機関との連携もとって、紹介患者の診療にあたっています。

患者会活動も行っており、糖尿病教室、糖尿病協会発行の「さかえ」を読む会を行っており、コメディカルスタッフと協同して患者教育にも努めています。

3. 診療実績

(1) 外来診療(患者数2019年11,887人)

- ①糖尿病外来を予約外来として行っており、初診外来で他の医療機関からの紹介患者、および院内からの依頼患者の診療にあたっています。また、妊娠糖尿病患者、糖尿病合併妊娠の患者の管理も行っています。
- ②糖尿病教育、糖尿病教室も含めての、“はじめ外来”を行っており、診察も並行して行い、合併症の評価もしながら指導しています。また、はじめ外来ではカンパセーションマップ(会話のための地図)を用いての患者教育、栄養指導、薬の指導も行っています。
- ③インスリン導入は外来で行うことが多く、糖尿病外来でのインスリン使用患者数は年間905人(うち75歳以上287人)でした。また、インスリン注射の手技の再チェックを必要時行っています。
- ④4) GLP-1注射薬(ビテリオン、ビクトーザ、リクスマ、パイエット、トルシテリ)も導入しています。
- ⑤CSII(持続皮下インスリン注入療法)も行っています。

⑥CGMS(持続血糖モニタリングシステム)も血糖日内変動を詳細に把握できる点で優れており、入院、外来で施行しています。

⑦フットケアも実施しており、足の管理、足病変の早期発見に努めています。

⑧糖尿病透析予防指導管理を行い、糖尿病腎症進展の防止に努めています。2012年10月より開始して、診察、看護指導、栄養指導を包括的にを行い、2019年では128名指導しました。

⑨)糖尿病患者会、および日本糖尿病協会発行の「さかえ」を読む会を行って啓発を行っています。

(2) 病棟診療

①糖尿病コントロール入院にて食事療法、薬物療法、運動療法を含めて教育も行い、46名がコントロールを行いました。

(3) 糖尿病内科チーム(P175参照)

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 教育

①糖尿病カンファレンス(毎週1回)

医師、コメディカルスタッフで行っており、2019年の症例数は69人。患者の日常生活環境、問題点などについて検討し、指導のポイントなどについて討論を行い、患者のQOL向上に努めています。

②糖尿病事務局会議(毎月1回)

新しい情報の検討、診療業務の改善、向上に努めています。

③第54回 糖尿病学の進歩に参加

(2) 研究

①糖尿病合併症進展因子についての検討

②糖尿病腎症の進展予防に対する、新しい糖尿病治療薬の効果についての検討

(3) 学会・研究等の(P180参照)

4月	・SGLT2阻害薬の当院におけるリアルワールドでの評価
5月	・新規CSIIシステムMinimed640Gにおける低グルコース前一時停止機能の有効性に関する検討 ・糖尿病リンクナース活躍によるインスリンチェックシートの活用
10月	・低グルコース前一時停止機能を備えた新規CSIIシステムに切り替えた一例
1月	・精神疾患を伴う糖尿病患者の検討並びに統合失調症患者の自殺企図の一例について

腎臓内科(透析)

1. 医師体制

役職名等 氏名(P207参照)

科長、病棟医長	肥田 徹
糖尿病内科医長	島村 裕子
非常勤医	4名

※他科と重複する場合があります

2. 概要、特徴、特色

- (1)腎臓内科では、主に慢性腎臓病の診断、保存期治療を実施しています。
- (2)腎臓内科、及び透析科では、急性期治療として緊急透析、持続緩徐式血液浄化、免疫吸着療法等を実施し救命治療に従事しています。また他院に通院している透析患者の急性期治療中の維持透析、また周術期の透析管理を実施しています。
- (3)当院では、末期腎不全患者の透析導入施設としての役割があり、安全に透析導入し、維持透析クリニックへ紹介しています。

3. 診療実績(2019 年 4 月～2020 年 3 月)

(1)患者数

		実人数	延べ人数
外来	腎臓内科	327人	1,892人
	透析科	387人	1,176人
入院	シャントPTA	68人	

(2)手術・透析等

内シャント造設件数		47件
シャント血管経皮的血管内治療		74件
維持透析導入		36件
維持血液透析件数		10,178件
急性血液浄化	人工腎臓	73件
	持続緩徐式血液浄化	4件
	エンドトキシン吸着	2件
	血球成分除去療法:	25件
	腹水濾過濃縮情静注法	3件
	単純血漿交換	1件

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)著書・論文・寄稿等(P194参照)

カフェイン中毒患者への血液透析功を奏した1例を経験して新入院患者数

5. 次年度に向けて

2020年4月より、透析機器安全管理委員会を立ち上げ、さらに安全な医療の提供と質向上を図ります。

■診療実績(診断群分類6桁別、2019年退院患者)

*医科点数表 K コード

傷病 6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介あり	手術あり 症例*
110050	後腹膜疾患	5	81.2	12.8	0	3	0
110060	腎盂・尿管の悪性腫瘍	1	85.0	38.0	0	0	1
110070	膀胱腫瘍	2	83.0	36.0	2	1	0
110080	前立腺の悪性腫瘍	6	81.3	15.7	2	4	0
11012x	上部尿路疾患	4	56.8	8.3	3	0	0
11013x	下部尿路疾患	6	83.7	9.5	2	4	0
11022x	男性生殖器疾患	9	77.8	8.0	2	2	0
110260	ネフローゼ症候群	4	64.3	18.8	2	3	0
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	145	69.6	8.8	6	97	104
110290	急性腎不全	21	73.0	16.1	10	9	0
110310	腎臓または尿路の感染症	156	74.4	13.0	63	65	5
110430	腎動脈塞栓症	1	65.0	7.0	0	1	0
計		360	72.6	11.6	92	189	110

救急・総合内科

1. 医師体制

役職名等	氏名(P207参照)
内科副部長、科長	守谷 能和
初期研修医	15名
非常勤	1名

※他科と重複する場合があります

2. 概要、特徴、特色

- (1) 二次救急指定病院として、入院や手術を必要とする重症の患者さまの救急医療を24時間体制で担っています。
- (2) 地域の“駆け込み寺ER”として、分け隔てなく受け入れをしており、多職種によるチームワークと地域との連携を大切にしています。
- (3) 2016年度、受入件数改善部門で埼玉県より表彰されています。
- (4) 救急診療委員会(P159参照)

3. 診療実績

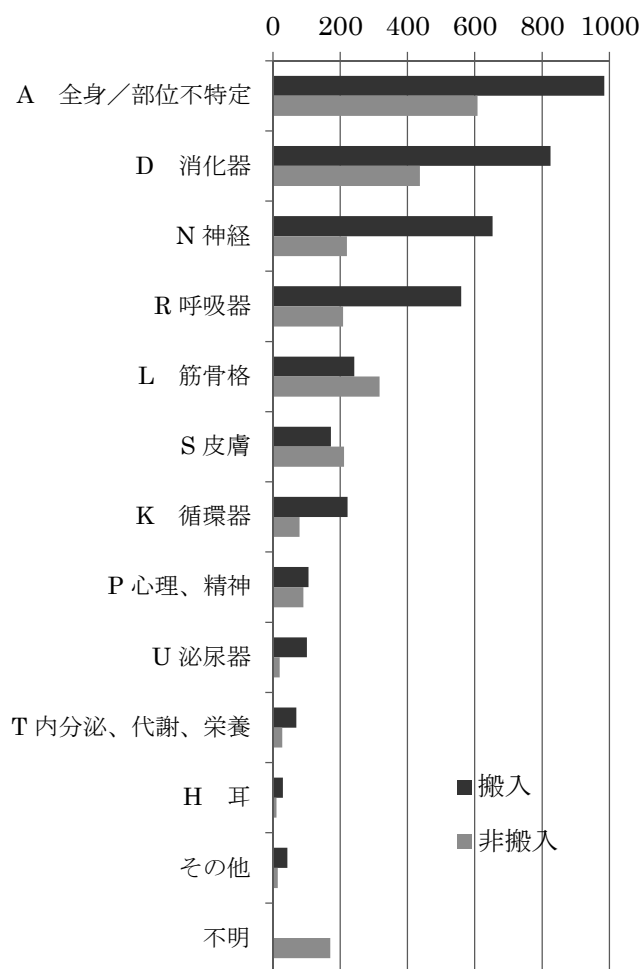
(1) 救急車受入(2019年1月～2019年12月)

川口市消防局	2,829
さいたま市消防局	1,064
埼玉西部消防局	6
春日市消防本部	2
上尾市消防本部	1
草加八潮消防局	19
越谷市消防本部	22
蕨市消防本部	34
戸田市消防本部	17
蓮田市消防本部	1
吉川松伏消防組合消防本部	1
熊谷市消防本部	2
川越地区消防局	1
埼玉県央広域消防本部	2
埼玉県南西部消防本部	1
東京都	3
千葉県	1
上記以外	4
計	4,010

(2) 救急搬入者の年齢別人数(2019年1月～2019年12月)

年齢区分	女性	男精	総計
6歳未満	68	101	169
6～14歳	25	39	64
15～19歳	49	35	84
29代	205	116	321
30代	134	114	248
40代	163	154	317
50代	194	214	408
60代	165	238	403
70代	360	449	809
80代	469	463	932
90代	162	89	251
100歳以上	3	1	4
総計	1,997	2,013	4,010

救急搬入/要請時症状別件数



在宅医療

1. 医師体制

役職名等 氏名(P207参照)

リハビリテーション科診療部長 稲村 充則

非常勤 有田 圭介

※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

埼玉協同病院は400床規模であり、全国をみわたしても、この規模で院内に在宅医療部門をもつところは皆無に近いと思います。介護保険が始まった2000年頃は240人程度の患者数を抱えていました。2006年に在宅療養支援診療所の制度が始まり、訪問診療が必要な方は地域の支援診に紹介しています。従って当院の患者数は当然ながら年々減少しています。診療報酬・介護報酬が年々変わり、がん患者さんは訪問看護ステーションの方が24時間の支援診を選ぶため、がんの方の最期の支援は少なくなっています。それでも残しているのは経済的に困難がある方、人生の最終盤を自宅で過ごしたい方などの在宅療養を支援するためです。

訪問診療を担当する医師は昼間対応しているわけですが、夜間休日は当直を担う医師全てが対応してくれて当院の在宅医療は支えられています。今後、病院ができた際には在宅療養支援病院として急性期、地域包括ケア、老人保健施設、訪問看護、居宅と地域を総合的に支える活動の中で在宅医療・訪問診療は質量ともに大きく発展していくものと考えます。

3. 診療実績(2019 年 4 月～2020 年 3 月)

(1)在宅管理数

①在宅管理数 55人/月平均

②新規在宅管理数 25人/年

(がん患者9人、非がん患者16人)

(2)在宅見取り

		入院死亡	在宅死亡
死亡18人	がん 7人	4人	3人
	非がん 11人	2人	9人

非がんの自宅看取り率は8割ということになります。がんの自宅看取り率は4割です。人数が少ないので参考値ですが、一貫して通常より高い在宅看取り率です。それは、「人生の最終盤を自宅で過ごしたい」という方に訪問するわけですから当然といえば当然の結果です。ちなみに、通常、在宅死は12～13%です。

4. 教育・研修・研究活動

(1)往診だよりへの執筆

3月号	胃瘻とは
4月号	在宅医療の対象と人生の最終段階のケア
5月号	認知症4大疾患とアルツハイマー型認知症
6月号	座敷牢からの認知症の捉え方と人権意識
7月号	認知症を疑うきっかけ・日常生活上の症状
8月号	熱中症について
9月号	血管性認知症、
10月号	レビー小体型認知症、
11月号	前頭側頭型認知症
12月号	その人らしく生きるに光を当てる「リハビリ」

(2)講演会活動等(P188参照)

9月	在宅医療啓発講座
----	----------

5. 次年度に向けて

自宅療養を希望される方で、長く当院にかかりつけで通院困難となり、社会的・経済的にも困難がある方、入院から自宅療養に切り替えとなる方で、最期が近い方の支援を行います。

禁煙外来

1. 医師体制

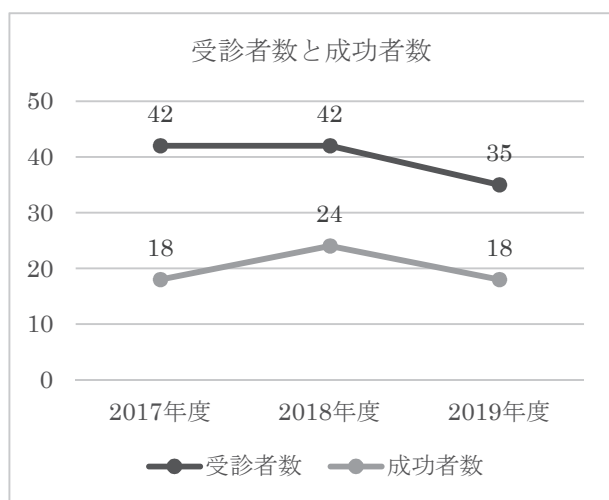
役職名等	氏名 (P207参照)
健診センター長	小池 昭夫
技術部長	市川 篤

※他科と重複する場合があります

2. 概要、特徴、特色

タバコを吸い続けてやめられない状態は、ニコチン依存症と診断され、治療が必要です。本人の能動喫煙以外に、周囲の受動喫煙による健康障害(発がん)の防止が注目されています。当院では、毎週火曜日と木曜日の午後、完全予約制で禁煙外来を行っています。喫煙歴をきちんと把握したうえで、喫煙補助薬の処方、治療の経過を見守っています。禁煙スケジュールは3ヶ月以内に5回受診します。また、2006年4月から一定の条件を満たせば、健康保険等を使って禁煙治療を受けることができるようになりました。

3. 実績



単位:人

	受診者数	成功者数
2017年度	42	18
2018年度	42	24
2019年度	35	18

(1)禁煙チーム(P178参照)

被ばく相談外来

1. 医師体制

役職名等	氏名 (P207参照)
精神科部長	雪田 慎二

※他科と重複する場合があります

2. 概要、特徴、特色

被爆外来は、月1回、完全予約制で行っています。広島・長崎の原爆被爆者、福島第1原発事故被災者、原発労働者などの健康相談を実施しています。

また、福島第1原発事故に関連して、福島県双葉町の住民を対象に甲状腺エコー検査の集団検診を毎年、継続的に行っています。2019年度は2020年2月2日(日)に実施し、44名が受診されました。

甲状腺外来

1. 医師体制

役職名等	氏名 (P207参照)
医員	見目 昭夫

2. 概要、特徴、特色

甲状腺外来は週2回、完全予約制で行い、必要に応じて専門施設へご紹介を行っています。

(1)患者数(2019年4月～2020年3月)

実患者数	患者延べ数
687人	2,984人

小児科

1. 医師体制

役職名等	氏名(P207参照)
診療部長	和泉 桂子
副部長	荒熊 智宏
科長、病棟医長	平澤 薫
医長	藤田 泰幸
熊谷生協病院・院長	小堀 勝充
川口診療所・副所長	高橋 慶
非常勤	5名

2. 概要、特徴、特色

当科は小児の common disease を中心に幅広い疾患に対応しています。重症例や疾患によっては高次医療機関へ対応をお願いする場合がありますが、各医師それぞれの専門性をいかして幅広い疾患に対応しています。入院は急性疾患の他、食物経口負荷試験や内分泌負荷試験等の検査入院も行っています。当院産婦人科は分娩数も多く、新生児疾患への対応もしていますが、重症な新生児については近隣の NICU へ依頼しています。

特徴として各種の育児支援を積極的に行っています。活動内容は、3. (2) 育児支援活動をご参照ください。

3. 診療実績(2019 年 4 月～2020 年 3 月)

(1) 外来医療

一般外来、専門外来、乳児健診・予防注射を行っています。紹介患者、救急搬入、急患患者は時間外も随時対応しています。川口市小児夜間救急診療事業の 2 次病院として金曜日を担当しています。

専門外来は、アレルギー・発達(神経)・心理・腎臓・循環器・内分泌/生活習慣病があります。アレルギー外来は気管支喘息・アトピー性皮膚炎等のへの対応、プリックテストや食物経口負荷試験を外来/入院で実施しています。神経外来は、小児によくあるけいれん性疾患や発達遅滞(障害)を中心に診察しています。心理外来は心身症や不登校などに対応しており、医師による診察、心理発達検査の他、臨床心理士によるカウンセリングや学習障害に対する学習支援も行っています。

乳児健診は多職種(医師、看護師、保育士、管理栄養士)の協力を得て、育児支援に力をいれた形で実施しています。予防接種は同時接種(1回4本まで)や基礎疾患のある児(けいれん発作、アレルギーなど)にも対応しています。

外来のべ患者数	18,828人
紹介患者数	353人(うち入院67人・再掲)
川口市小児夜間救急	1,065人(毎週金曜日)
予防接種(のべ)	3,578人

乳幼児健診	生後1ヶ月	524人	1歳	218人
	生後3～4ヶ月	363人	1歳半	264人
	生後6～7ヶ月	308人		
	生後9～10ヶ月	241人		
合計(のべ人数)				1,918人

(2) 育児支援活動

- ①うぶごえ学校(院内両親教室) 月1回
- ②孫と一緒に広場(祖父母への育児教室) 年3回
- ③ベビーマッサージ(看護師・保育士によるマッサージ指導及び医師による育児相談) 月1回
- ④ベビーランチ(病院が用意離乳食を食べながら、医師・栄養士と育児相談) 月1回
- ⑤子育て教室(生後6～12ヶ月の児を対象に医師や各職種の講演、みんなで遊ぶ等を行い、子育ての仲間作りもすすめています) 1クール3回×年2クール(前期/後期)
- ⑥子育てCafe(医師・看護師・保育士など多職種のスタッフを交えてざっくばらんに話し) 不定期

(3) 入院医療

入院患者数	536人	(うち新生児室入院177人)
産科分娩数	529人	

(4) 小児虐待対策チーム(P177参照)

(5) 子育て支援チーム(P178参照)

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 教育関連施設等

初期研修医8名、家庭医後期研修医1名が小児科研修を実施しました。カンファレンスは、産婦人科と合同で周産期カンファレンス(月1回)、文献抄読会(週1回)を定期的に行っています。

- ①日本小児科学会小児科専門医研修施設
- ②日本小児神経学会小児神経専門医研修関連施設

(2) 学術・研究等の発表(P180参照)

4月	おたふくかぜ予防接種助成による接種状況の変化
7月	医療機関、学校、市役所、児童相談所が連携して介入できた医療ネグレクトの中学生事例

(3) 講演会活動等(P188参照)

8月	熱中症について
11月	「てんかん発作型」と「てんかん」の新しい分類について

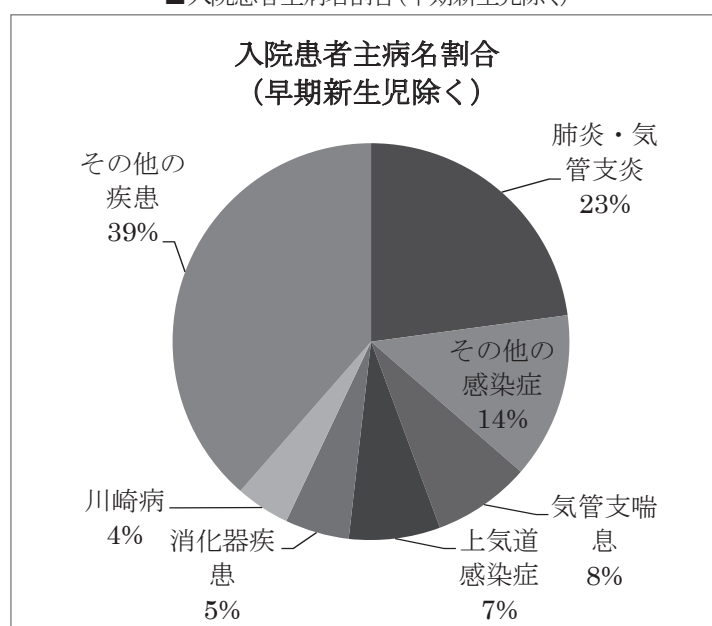
5. 次年度に向けて

新型コロナウイルス流行(2020年4月現在)で家から出られず孤立する親子が増える中、LINEやYouTubeなどSNSを利用した情報提供や育児支援の取り組みを始めます。また、ビデオ会議システムを利用し、子育て支援チームと連携して顔の見える企画を作る予定です。

■診療実績(診断群分類6桁別、2019年退院患者、資源投入科が小児科)

傷病 6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	診断 検査	その他 の加療
040090	下気道感染症(その他)	46	1.2	4.3	1	12		46
080270	食物アレルギー	38	2.4	1.2	5	10	30	8
040070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	34	4.1	4.4	3	12		34
040080	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎	33	3.4	4.1	2	9		33
040100	喘息	29	3.4	4.4	0	11		29
060380	ウィルス性腸炎	26	4.8	3.4	3	8		26
030270	上気道炎	17	1.2	3.5	2	5		17
140010	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	17	0.0	6.9	0	0		17
150070	川崎病	16	1.9	11.4	0	12		16
110310	腎臓または尿路の感染症	15	1.8	8.2	0	7		15
100210	低血糖症	13	5.3	3.5	1	3		13
030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	8	3.4	3.6	0	3		8
130111	アレルギー性紫斑病	7	6.9	11.3	2	2		7
080010	膿皮症	5	5.0	4.8	0	3		5
100250	下垂体機能低下症	5	4.8	3.0	0	2	5	
180030	その他の感染症(真菌を除く。)	5	7.2	5.8	0	2		5
080090	紅斑症	4	6.8	5.8	0	1		4
010080	脳脊髄の感染を伴う炎症	3	6.7	5.3	0	0		3
030330	急性副鼻腔炎	3	5.3	4.0	0	1		3
070520	リンパ節、リンパ管の疾患	3	6.3	6.3	0	2		3
080080	痒疹、蕁麻疹	3	5.0	3.7	0	0		3
100393	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害	3	8.7	2.7	0	2		3
	その他の疾患	42			10	8	3	39
計		375	3.4	4.6	29	115	38	337

■入院患者主病名割合(早期新生児除く)



外科

1. 医師体制

役職名等	氏名 (P207参照)
外科部長	井上 豪
院長補佐	井合 哲
外科副部長	栗原 唯生
	佐野 貴之
外科技術部長	長 潔
	浅沼 晃三
	小野 聡
技術部長	市川 辰夫
乳腺外科科長	金子 しおり
病棟医長	重吉 到
外科専攻医	松原 浩太
	入江 直子
非常勤	1名

※他科との重複する場合があります

2. 概要、特徴、特色

当院外科は、消化器一般外科を中心に、肺外科、乳腺外科の診療において、川口市、さいたま市地域の患者さんに、住み慣れた地域で安心してかかっている外科医療を提供できるよう、日々の診療に励んでいます。

- (1) 消化器外科では主に胃、大腸、肝胆膵の良性および悪性疾患に対する手術を行っています。腹腔鏡下手術から進行がんに対する開腹下の拡大手術まで幅広く対応する体制があります。進行がんに対する治療では、抗がん剤治療を組み合わせた集学的な治療が欠かせませんが、非常勤の腫瘍内科医師と協力しながら積極的に治療を行っています。
- (2) 当院は胆石手術の件数が比較的多く、2018年から胆嚢炎に対する急性期手術を積極的に行っています。2019年はその手術件数も伸び、およそ30%が急性期手術でした。胆石胆嚢炎に対する急性期手術は、出血が多く、胆管損傷などの合併症発生率が高くなるように思われますが、出血については機器の進歩のおかげもありコントロールが容易となり、また手術難易度については急性期手術の肝を心得ることで克服できていると思われます。胆嚢炎に対する急性期手術は、待機的手術に比べ病悩期間を短くできるとも良い治療であると考えています。
- (3) 肺外科は埼玉県立循環器呼吸器病センターから手術支援を受けながら治療を行っています。

(4) 乳腺外科は女性医師一人体制ですが、それを支える看護師、技師などの多職種集団で手厚いチーム医療を行っています。乳腺外科に限らず、多職種が参加したチーム医療で、患者さんの生活背景にまで配慮した医療を提供できるのが当院の最大の強みです。

(5) 地域の急性期医療を守るため緊急性の高い外科疾患に迅速に対応すること、また、埼玉県がん診療指定病院として専門性の高い外科治療を行うことが当科に求められていると考えております。今後も地域の皆さんからの期待に答えるべくさらに研鑽していきます。

3. 診療実績

(1) 外来患者数

実患者数	のべ患者数
4,208人	16,202人

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表 (P180参照)

6月	・A case of gallbladder carcinoma forming a massive cystic mass
7月	・当院におけるinternal appendectomy症例の検討 ・用手的に整復を試みた後のCTで診断に至ったヘルニア偽の1例
10月	・副交通胆管枝を伴った胆石症の1例
11月	・当院における胃全摘後空腸パウチ再建の検討 ・肝細胞癌術後早期の大動脈周囲リンパ節転移に対して外科的治療が有効であった1例 ・完全型虫垂重積症を来した虫垂癌を先進部とする成人腸重積症の1例 ・イレウス管で減圧後に腹腔鏡下に修復し得た大網裂孔ヘルニアによる腸閉塞の1例

■外科手術実績			2017年		2018年		2019年	
			手術件数	うち鏡視下	手術件数	うち鏡視下	手術件数	うち鏡視下
入院手術総数(手術室施行)			685	282	751	317	693	299
肺切除			18	15	21	13	22	15
	悪性	部分切除	6	6	10	7	12	11
		葉切除	4	1	7	2	6	
	良性	部分切除	3	3	2	2	1	1
	気胸		5	5	2	2	3	3
その他の胸部手術			1		2	1	5	5
	悪性				1	1	1	1
	良性		1		1		4	4
食道切除			3				1	
	悪性		3				1	
	良性						0	
胃切除			38	10	29	14	22	5
	悪性	胃全摘	11	3	6	1	4	
		幽門側切除	21	5	19	10	13	4
		その他	4	1	3	2	4	1
	良性	幽門側切除					1	
		その他	2	1	1	1		
大腸切除			96	46	89	46	102	46
	悪性	結腸切除	64	32	61	31	62	26
		直腸切除	20	13	15	7	24	16
	良性	結腸切除	10	1	12	7	14	4
		直腸切除	2		1	1	2	
小腸切除			20	4	23		19	
	悪性		4	2	3		5	
	良性		16	2	20		14	
その他の手術			233	65	254	74	255	
	ヘルニア手術		125		143		134	
	虫垂炎手術		53	50	63	62	76	76
	イレウス		25	6	15	2	18	1
		うち小腸・結腸切除(再掲)	(8)	(3)	(9)		(10)	(1)
	腸穿孔・腹膜炎手術		30	9	33	10	27	11
	うち癌によるもの(再掲)		(3)	(1)	(3)		(10)	(3)
肝切除			35	15	27	13	25	8
	悪性	部分切除および外側区域切除	19	12	18	10	14	6
		上記以外の切除	16	3	9	3	8	
	良性	部分切除および外側区域切除					2	2
		その他の切除					1	
膵切除(胃切除に伴うものを除く)			15	3	18	3	8	2
	悪性	膵頭十二指腸切除	7		9		6	
		膵体尾部切除	6	1	6			
	良性	膵体尾部切除	2	2	3	3	2	2
胆嚢摘出			106	105	149	149	137	134
乳腺			66		60		63	
	悪性	乳房切除	18		24		29	
		乳房部分切除	43		31		32	
	良性	腫瘍摘出	5		5		2	

乳腺外科

1. 医師体制

役職名 氏名 (P207参照)

科長 金子 しおり

※他科と重複する場合があります

2. 概要、特徴、特色

(1) 日本において女性のがん罹患率で乳がんが1位となっており、10人に一人が乳がん罹患しています(2015年国立がん研究センター、がん情報サービスより)。年齢別の罹患数をみると30歳代後半から増加を始め、40歳代後半から

50歳代前半でピークを迎えます。乳がんの治療は手術だけではなく、薬物療法、放射線療法と複合的に行っていくため、通院頻度や金銭面での負担がかかってきます。そこで自宅近くでも安心して治療が受けられるよう診療を行っています。

(2) 乳腺疾患に必要な設備を整え、乳腺疾患の精査から治療まで行っています。乳がん患者様の精神面のフォローや社会的背景を考慮しながら診療を行えるように、メディカルスタッフとの連携を図っています。必要に応じて乳がん看護認定看護師やがん化学療法看護認定看護師等との面談を提案します。また、当院に放射線治療施設がないため、放射線治療が必要な症例に対しては近医への紹介を行っています。

3. 診療実績(2019 年 1 月～12 月)

(1) 診療実績(診断群分類6桁別、2019年退院患者)

*医科点数表 Kコード

傷病 6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あり 症例*	診断 検査	計画的繰り 返し入院	その他 の加療
090010	乳房の悪性腫瘍	90	60.8	5.4	0	25	60	1	29	60
090020	乳房の良性腫瘍	2	51.5	3.0	0	1	2	0	0	2
計		92	60.61	5.348	0	26	62	1	29	62

(2) 検査件数

検査	件数
乳房エコー	2,387件
乳腺穿刺(FNA)	171件
乳房超音波ガイド下生検(CNB)	149件
STマンモトーム	8件
乳房MRI	77件
マンモグラフィ	1,509件

(3) 手術件数

行為名称	件数
乳腺腫瘍摘出術(長径5センチメートル以上)	2
乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わないもの))	30
乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術(腋窩部郭清を伴わないもの))	23
乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴うもの(内視鏡下によるものを含む。)))	2
乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術(腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの)・胸筋切除を併施しないもの)	4
乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術(腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの)・胸筋切除を併施するもの)	1
計	62

(4) 乳腺科診療チーム会議(P173参照)

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- (1) 病棟カンファレンス(毎週月曜日)： 入院患者のカンファレンス。
- (2) 乳腺がんカンファレンス(毎週水曜日)： 腫瘍内科医を中心に薬物療法の治療方針(術前・術後・再発)、術式、患者対応や緩和ケアなどを検討。全身状態のチェックなどを行う。
- (3) 画像カンファレンス(毎週1回)： 病理医・放射線技師・臨床検査技師とともに病理及び画像検討。

整形外科

1. 医師体制

役職名等 氏名(P207参照)

主任部長	仁平 高太郎
部長	桑沢 綾乃
病棟医長	遠藤 大輔
医員	北村 類
	丸木 千陽美
	揚 宝峰
専攻医	春日 直人
	大津 匡弘
非常勤	13名

2. 概要、特徴、特色

埼玉協同病院の整形外科は地域の基幹病院の一つとしてレベルの高い医療を提供できるよう、今後もますます診療体制を充実させてまいります。診療体制は7名の常勤医師と13名の非常勤医師が診察にあたります。慶應義塾大学からは腫瘍、脊椎、上肢の専門医が勤務にいたり、それぞれの専門分野を中心に外来診療・手術を行っています。

- (1) 2018年4月に開設した関節治療センターは、人工関節手術とともに、手術によらない新しい関節治療である再生医療を二本の柱として治療しています。膝・股関節の人工関節手術は21世紀において最も成功した手術と言われ、安全性・確実性に優れた手術です。その中でも当院では、更なる正確性を目指し、ナビゲーションシステム、3D骨モデルの作成など全国に先駆けた最先端の技術を導入し、国内でも有数な症例数を誇る、全国から手術研修の医師が来られる病院に成長しました。
- (2) 関節治療に対する再生医療は、厚生労働省の認可が必要であり、脂肪・血液(PRP)・軟骨を利用して、関節痛を改善させる3つの再生医療を提供できる総合病院は極めて希少です。患者満足度の高い手術治療、更に、手術によらない新しい関節治療である再生医療も先駆的に導入し、全ての関節痛の患者様にご満足頂けています。
- (3) 2008年10月より、人工関節、股関節外科を当病院整形外科のメインテーマにかかげ、最新のコンピューター支援手術器械であるナビゲーション手術システムを導入しました。さらに、2019年9月からは、人工膝関節ロボット(NAVIO)を導入し、最新医療に取り組んでいます。
- (4) 認定施設等
 - ① 日本整形外科学会専門医研修認定施設
 - ② 日本リウマチ学会教育施設

3. 診療実績(2019年1月～12月)

(1) 手術件数

術式	件数
人工股関節置換術	417
人工股関節再置換術	9
人工膝関節置換術	528
人工膝関節再置換術	1
人工肘関節置換術	5
その他の関節手術	68
脊椎固定術	86
椎間板摘出術	1
骨折観血の手術	185
人工骨頭挿入	38
四肢切断	12
靱帯断裂手術	9
骨切り術	3
神経剥離術・神経移行術	15
その他の手術	146
計	1,523

(2) 他院からの紹介

外来	1,046
入院(外来後入院含む)	336
計	1,394

4. 患者会活動

股関節疾患(あしの会)と膝関節疾患(ひざっこの会)に関して患者会がそれぞれ存在します。年に数回、患者会メンバーを中心に医師による疾患の理解を深めるための講演を行っています。

5. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 教育・研修

- ① モーニングカンファレンス(週3回)
- ② 病棟カンファレンス(週1回)

(2) 表彰

- ① 第47回日本関節病学会 学術集会奨励賞受賞
- ② 第50回日本人工関節学会 人工関節スポーツ動画学会長特別賞

(3) 学術・研究等の発表(P180参照)

6月	・変形性膝関節症に対するAPS療法の短期成績
9月	・術中、術後骨折の対処と予防法
10月	・RAO後THAでは腸腰筋インピンジメントが高率に発生する ・カップ前方露出がなくとも腸腰筋インピンジメントによる鼠径部痛を呈したが、腸腰筋切離により痛みが消失した1例
11月	・脂肪由来幹細胞ASCによる cell therapy 6か月経過の成績

(4) 講演会活動等(P188参照)

2月	・初回THA・大腿側難治例に対するWagner cone stemの短期成績 ・再生医療:実践関節の再生医療
3月	・再生医療:実践関節の再生医療APSを中心に
4月	・再生医療:関節の再生医療APS療法の実際 ・TKA:BCR-TKAのpitfall
5月	・人工関節 THA/TKA:患者満足度を目指して
6月	・再生医療:ASC療法の実際
7月	・セメントレスTHAにおける術中、術後早期の骨折に対する検討
8月	・TKAの疼痛管理・患者満足度 ・腸腰筋インピンジメント
9月	・TKA:BCR-TKAのpitfall ・BC-TKAの手術手技 ・術中・術後骨折の対処と予防法 ・APS療法
10月	・ケースレポート:変形性膝関節症に対する脂肪培養幹細胞治療 ・人工関節:THA Approachのpitfall
11月	・再生医療 ・再生医療 APS療法の中期成績
2月	・再生医療:次世代PRP APS療法の実際 ・Dual mobility THAの適応

(5) 著作・論文・寄稿等(P194参照)

次世代型PRPのAPS(Autologous Protein Solution)療法 施行6ヵ月での臨床経過の検討
TKAで術前神経ブロックと術中麻薬フェンタニールの使用量・合併症の検討
BCR-TKAにおけるtibia tray回旋指標の検討 Shakes peare lineは有効か?
スプ挿入時の叩打力とステム周囲骨折 ～叩く力は骨折発生率に影響するか?～
前方系侵入の過度な屈曲挿入で生じたstem周囲骨折 ～前倒れ骨折の検証～
THA術後に発生したChronic Expanding Hematoma (CEH)の1例
初回THAの大腿側難治例に対するWagner cone stemの短期成績(原著論文)
硬膜内に脱出したガスを有する腰椎椎間板ヘルニアの1例(原著論文/症例報告)
次世代型PRPのAPS(Autologous Protein Solution)療法 施行3ヵ月での臨床経過の検討

■診療実績(診断群分類6桁別、2019年退院患者)

*医科点数表Kコード

傷病 6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あり 症例*	診断 検査	計画的 繰り返し 入院	その他 の加療
07040x	股関節骨頭壊死、股関節症(変形性を含む。)	337	65.9	21.3	2	111	335			337
070230	膝関節症(変形性を含む。)	219	72.7	31.0	0	78	218		1	218
160800	股関節大腿近位骨折	106	79.0	32.2	31	59	100		2	104
070343	脊柱管狭窄(脊椎症を含む。)腰部骨盤、不安定椎	106	72.4	13.3	3	38	54	48		58
160760	前腕の骨折	52	62.7	3.1	2	35	51		8	44
160850	足関節・足部の骨折、脱臼	41	50.7	15.9	3	29	40		9	32
160700	鎖骨骨折、肩甲骨骨折	35	55.8	4.7	2	23	35		8	27
160740	肘関節周辺の骨折・脱臼	34	43.8	4.3	0	27	34		7	27
070350	椎間板変性、ヘルニア	34	54.7	13.9	4	14	29	1		33
070341	脊柱管狭窄(脊椎症を含む。)頸部	25	70.5	31.2	0	9	17	7		18
180040	手術・処置等の合併症	22	73.9	57.1	2	14	22			22
160820	膝関節周辺骨折・脱臼	20	66.2	29.4	1	12	20		4	16
160720	肩関節周辺の骨折脱臼	16	76.4	6.3	0	12	16			16
160835	下腿足関節周辺骨折	13	60.4	26.2	3	7	13		4	9
160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む。)	12	60.7	27.0	2	4	7	1		11
160620	肘、膝の外傷(スポーツ障害等を含む。)	12	55.6	8.9	0	2	11			12
07010x	化膿性関節炎(下肢)	9	60.8	38.8	1	3	7			9
160780	手関節周辺骨折脱臼	9	47.9	2.9	0	6	9			9
071030	その他の筋骨格系・結合組織の疾患	9	75.9	54.7	2	4	9			9
070610	骨折変形癒合、癒合不全などによる変形(上肢)	7	50.1	3.4	0	6	7			7
070470	関節リウマチ	7	71.6	32.9	0	2	7			7
070395	壊死性筋膜炎	6	65.7	63.3	1	2	5			6
070010	骨軟部の良性腫瘍(脊椎脊髄を除く。)	6	63.3	6.2	0	5	5			6
050170	閉塞性動脈疾患	6	73.5	39.5	0	5	5	1		5
160980	骨盤損傷	5	73.4	38.8	1	4	2			5
070330	脊椎感染(感染を含む。)	5	71.6	34.8	1	2	3			5
070160	上肢末梢神経麻痺	5	67.0	3.4	0	2	5			5
070040	骨の悪性腫瘍(脊椎を除く。)	5	75.4	40.6	3	2	4		1	4
	その他の傷病	66			3	28	50	0	4	
計		1,229	66.9	22.4	67	545	1,120	58	48	1,061

脳神経外科

1. 医師体制

役職名等 氏名(P207参照)

部長	石丸 純夫
非常勤	須田 喜久夫
	済生会川口総合病院脳神経外科主任部長
	脳神経外科専門医
	脳卒中専門医
	井出 光信
	脳神経外科専門医

2. 概要、特徴、特色

2017年4月1日から、石丸が常勤医として勤務させていた
だいており、3年経過しました。外来診療のみですが、脳卒中
救急に関する相談や、病棟での脳卒中・頭部外傷患者さんの
コンサルテーションに対応しました。

脳卒中の症例は多く、救急や当直帯での問い合わせもコン
スタントに増えてきています。南部MCの連携病院として、また、
日本脳卒中協会に「一次脳卒中センター」として登録されたこ
ともあり、脳卒中救急はたくさん受けていただいています。
t-PA 施行例は、42件でしたが、血栓回収のための転送例も
件ありました(石丸はiPadを常時携帯して、脳卒中画像のコン
サルテーションをしています)。

慢性硬膜下血腫の手術適応患者さんは、済生会川口総合
病院などに転送させていただいておりますが、外来での保存
的治療・経過観察例もあります。

2018年、頭痛学会の専門医を取得し、片頭痛の受診例も
増えてきています。

ボトックス治療は、顔面けいれん・眼瞼けいれんに対して施
行しています。

- ・日本脳卒中学会教育研修病院(2017年12月から)
- ・埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク(SSN)、南MCの連
携病院(2017年12月から)
- ・日本脳卒中協会の一次脳卒中センター(2019年12月から)

3. 診療実績

(1) 外来診療(2019年4月～2020年3月)

脳外科外来患者数	1,578人
(うち紹介患者数)	135人
ボトックス治療件数	42件

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 教育・研修

- ① 毎週火曜日 7時 救急症例検討会に参加。
- ② 毎週木曜日 14時 D5病棟リハビリテーションカンファレ
ンスに参加
- ③ 毎週月曜日 16時 脳卒中急性期入院リハビリの検討会
に参加。
- ④ 6月～8月、研修医対象 隔週金曜日 7時30分、脳疾患
画像のレクチャー 7回施行。
- ⑤ 7月 内科専門外来の看護師対象 「脳神経外科のトリ
アージ」のレクチャー

産婦人科

1. 医師体制

役職名等	氏名 (P207参照)
部長	市川 清美
副部長	榎本 明美 芳賀 厚子
医長	伊藤 浄樹
専攻医	李 冬平 春日 みさき 古川 由理
非常勤	竹内 育代、岡野 滋行、上野 紀子 藪田 直樹、堀内 功、沼口 正英 秋津 憲佑、高木 耕一郎
嘱託	矢口 輝仁、神谷 稔

2. 概要、特徴、特色

近隣で地域の周産期医療を長期に担ってきたクリニックが閉院となり、分娩数が一時的に増加しました(表1・図1)。しかしその中にも他院で診察困難とされた精神疾患合併の方や、途中で生活保護受給となり入院助産適応のため転院された方、在留資格のない外国人の方などがいらっしゃいます。また、帰省分娩を希望しそれまでの妊婦健診の受診先が見つからずに相談を受けることもあります。ステップファミリー(お子様がいて再婚する場合)も増加しており、家族で新しい生命を迎えるお手伝いをしていく意味を考えさせられます。中には出産後養育困難で、児童相談所や特別養子縁組の制度利用を希望される方もいて、地域機関と連携した支援も行いました。様々な社会的背景があっても、妊娠した女性と生まれてくる新しい生命の両方を支えていく努力を続けてきました。切迫早産の母体搬送は全て県内で受けていただくことができました(表2)。出生前診断は、学会認可以外に安価で検査のみ行う施設も出現し、確認が困難となっています。今後患者様への聞き取りを強化して実態を把握していく予定です(表3)。

手術については、腹腔鏡手術の増加が医師体制上難しく、腹腔鏡手術希望者を紹介している影響もあり開腹手術の件数が減少しています。一方で骨盤臓器脱の手術は増加傾向で、高齢女性の QOL 向上に貢献できたのではないかと考えています(表4)。月経随伴症状に対するホルモン治療も増加しており、地域で女性の人生を支えていく役割を果たしてきました(表5)。

検診陽性者には再検査・受診を個別に徹底するよう心がけてきました(表6)。進行悪性腫瘍の治療は高次医療機関への紹介を基本としていますが、治療後の緩和医療を希望される方々へも緩和チームと連携して最期まで責任を持って医療を提供してきました(表7)。

専攻医については東京女子医科大学東医療センター、自治医科大学さいたま医療センターに連携させていただき、研修をすすめています。初期研修医のローテーション研修(院内7人、関連病院から2人)を指導する中で産婦人科専攻志望者も出てきており、将来当院での医療活動への参加してくれることを期待しています。

3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表(P180参照)

6月	・ワークショップ 周産期の精神保健(産婦人科)
----	-------------------------

(2) 講演会活動等(P188参照)

4月	・憲法13条・24条がいきる社会へー性差別を超えて自分らしく生きるとは
6月	・女性と子どもの貧困から見えてくるもの～産婦人科医療の現場から～ ・ワークショップ 周産期の精神保健(産婦人科)
10月	・看護学生の方へ 女性と子どもの貧困からみえてくる私たちの課題
11月	・パネルディスカッション「働き続けるために必要なこと～ひとりひとりが大切にされる職場・家庭・地域・etc 産婦人科医・弁利・労働組合と一緒に考えよう」

(3) 著書・論文・寄稿等(P194参照)

当院における2015年初診妊婦の全体像と社会的背景についての考察
定期的な婦人検診を
フォーカス 私たちの実践 若年妊婦の支援

4. 次年度に向けて

2020年には新たに近隣に産科クリニックが開業となる為、分娩数は大幅に減少することが予想されています。周囲の医療事情の影響はやむを得ないこととして、この病院だからできる産婦人科医療を大切にしていきたいと考えています。

この原稿を書いているのは新型コロナが拡がった2020年4月で、分娩時の家族の立ち合いさえできず患者様・スタッフ共に辛い時期を過ごしています。まずは感染対策を徹底して、患者様の安全と医療体制の維持を最優先にこの時期を乗り切らなければなりません。

今後、社会システム・経済状況が一変し、生活困窮者が増加することが予想されます。社会的弱者が医療から排除されないよう民医連・医療生協の病院として覚悟を決めて地域の産婦人科医療を支えていきたいと考えています。

長期的に体制を維持していくためには、産婦人科常勤医師の確保が必須の課題です。ローテーションしてくる初期研修医の中で、地域の産婦人科医療を担う人材を養成していけるよう働きかけていきたいと思っています。

表1 分娩数と出産年齢及び合併症

代別分娩数	2019 年
19 歳以下	12
20～24 歳	70
25～29 歳	135
30～34 歳	174
35～39 歳	119
40～44 歳	20
45 歳以上	1
計	531
帝王切開	88
合併症妊娠	
子宮筋腫	11
精神疾患	21
甲状腺疾患	7
高度肥満(BMI $\geq$ 30)	9
糖尿病	4
HDP	28
GDM	39
円錐切除後頸管縫縮	5

表2 母体搬送の週数および紹介先

母体搬送	週数	
	～22 週	0
	23～27 週	1
	28～31 週	0
	32～34 週	1
	35 週以上	1
	搬送先	
	川口医療センター	3
	埼玉医科大学総合医療センター	0
	越谷市立病院	0
	東京女子医科大学東医療センター	0

表3 出生前診断紹介数

出生前診断		
	羊水検査	1
	クワトロテスト	1
	NIPT	0
	超音波検査	7

表4 手術

入院・手術室施行 (帝王切開除く)	193	
子宮筋腫	48	(+帝切時 2)
卵巣腫瘍・含内膜症	26	(+帝切時 5)
(うち腹腔鏡)	(5)	
異所性妊娠	11	
(うち腹腔鏡)	(2)	
頸部異形成・上皮内がん	55	
子宮脱	26	
子宮頸管縫縮術	18	
その他	9	

流産手術 10

表5 ホルモン療法患者数

低用量ピル	3 ヶ月以上
トリキュラー	21
ルナベル・フリウェル	137
計	158
エストラーナテープ	93
メノエイドコンビパッチ	25
ディナゲスト	10
ミレーナ(子宮内避妊具)	36
GnRH	3 ヶ月以上
リュープリン	49
ナサニール	53

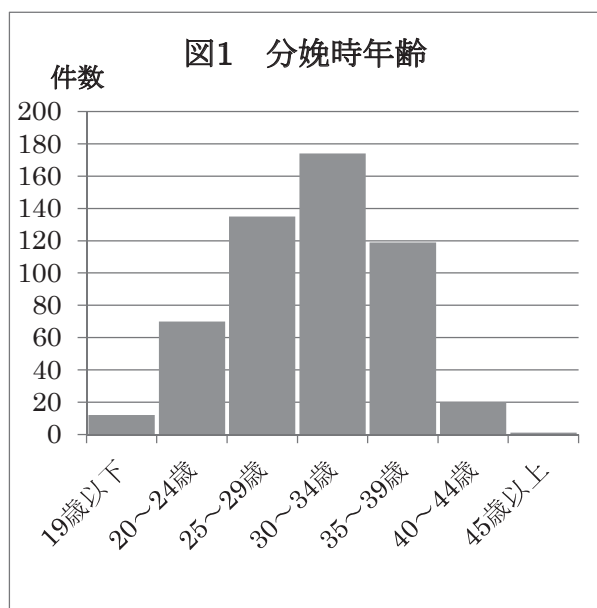


表6 がん検診

子宮頸部	5342
NILM	5601
ASC-US	74
ASC-H	7
LSIL	19
HSIL	17
AGC	3
SCC	2
材料不適	4
子宮体部	3850
陰 性	3833
疑陽性	10
陽 性	1
材料不適	177

表7 悪性腫瘍紹介数

紹介先	例数
埼玉県立がんセンター	12
がん・感染症センター都立駒込病院	9
自治医科大学附属さいたま医療センター	7
獨協医科大学埼玉医療センター	6
がん研有明病院	5
慶應義塾大学病院	3
国立がん研究センター中央病院	3
さいたま市立病院	1
松戸市立総合医療センター	1
川口市立医療センター	1
帝京大学医学部附属病院	1
田中レディースライフクリニック	1
東京慈恵会医科大学附属柏病院	1
東京女子医科大学東医療センター	1
悪性腫瘍	例数
子宮頸癌	20
子宮体癌	18
卵巣癌	11
腹膜癌	1
悪性黒色腫	1
胆嚢癌	1
総計	52

皮膚科

1. 医師体制

役職名等	氏名(P207参照)
部長	伊藤 理恵
医員	飯島 孝四郎
非常勤医	7名

2. 概要、特徴、特色

皮膚科には常勤医2名、非常勤医6名が勤務しており、皮膚科としては県南最大規模の病院のひとつで、日本皮膚科学会認定の研修施設です。この8名で平日午前中と金曜日午後の一般診療を担当し、平日午後には手術や予約診療を行っています。

当科では通常の皮膚疾患をしっかりと診断し治療することを基本方針として診療をしています。診療疾患は多岐にわたるため、各種血液検査や病理検査に加えて、皮膚エコーやMRI、CTなどの画像診断を有効に使い、まず確定診断を正確にすることを目標としています。治療は通常の内服療法、外用療法のほか、手術療法や紫外線治療(UVA、UVB)、アトピー性皮膚炎に対する生物製剤治療も取り入れ効果をあげています。

また、外来にはQスイッチアレキサンドライトレーザーがあり、健康保険診療としては太田母斑や異所性蒙古斑に、自費診療としては老人性色素斑に著効しています。

基本的に健康保険診療で治療していますが、いくつかの自費診療を取り入れており、患者様のQOL向上に有益と考えています。

3. 診療実績

(1) 外来診療

平日午前中は3～4人体制で、金曜日午後は1診体制で一般外来を行っています。平日午後は予約制で診療、手術、処置、美容関係の自費診療などを行っています。

2019年度の皮膚科延べ外来受診数は20,655人であり、月平均外来受診人数は1,700人を超えています。受診内容は湿疹アトピー性皮膚炎群、皮膚細菌感染症、真菌感染症、ウイルス性皮膚疾患、尋常性痤瘡、自己免疫性皮膚疾患、熱傷、各種爪疾患、良性悪性皮膚腫瘍など多岐にわたっています。

(2) 手術

毎週月曜日、水曜日、金曜日の午後に行っています。2019年の手術件数は384件で、局所麻酔下での手術が主体です。9割以上が日帰り外来手術ですが、入院手術も受けています。内容は表皮嚢腫、脂肪腫、母斑などの良性腫瘍切除術が多く、陥入爪根治術、皮膚悪性腫瘍切除術などが続きます。

(3) 紫外線治療

当科には長波長紫外線治療器(PUVA、UVB)とナローバンド中波長紫外線治療器(エキシマライト)があり、尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎、掌跖膿疱症などに対して光線治療を行い良好な効果をあげています。

(4) 生物製剤による治療(自費診療部門)

大部分は一般診療中に施行していますが、イオン導入とケミカルピーリングは木曜日と金曜日の午後に予約にて施行しています。

①アンチエイジング目的	レーザー治療	163件
	イオン導入	15件
	ケミカルピーリング	92件
②男性型脱毛症への内服治療		
③円形脱毛症などに対する局所免疫療法(SADBE治療)		
④陥入爪への超弾性ワイヤーによる強制治療		
⑤ピアスホール作成		

(2019年4月～2020年3月)

4. 学術・研究、講習、研修会等の記録

(1) 教育・研修

月曜日の外来診療後に臨床カンファレンスを行っています。当院は皮膚科専門医の一般研修施設です。希望があれば初期研修医及び後期研修医の皮膚科研修も受け入れています。

(2) 講演会活動等(P188参照)

4月	・当院におけるデュピルマブ投与3例の使用治験
11月	・アトピー性皮膚炎におけるデュピクセントの治療経験

眼科

1. 医師体制

役職名等 氏名(P207参照)

部長	太根 伸浩
非常勤	6名

2. 概要、特徴、特色

前年度から引き続き、外来は常勤医1名体制で、非常勤として週3回は帝京大学病院から派遣医師が担当しています。診療内容が多岐にわたるため 基本的な一般検査一式だけでなく、OCT・エコーなどの画像診断や各種血液検査も併用し、幅広い眼科全般の診察(角膜疾患、白内障、緑内障、糖尿病網膜症・加齢黄斑変性症・RVOなど網膜疾患)に対応しています。

特に専門である緑内障に関しては、より詳細な診療を行っています。また神経眼科や頭頸部疾患の境界領域に対しても、脳外科・耳鼻咽喉科などと連携し、CT・MRIなどの画像診断を通じて、可及的速やかに対応できるようにしています。

その他の全身疾患に関しても、他科と積極的に連携し、早期発見・早期治療を目指しています。当院で対応が難しい各疾患に対しては、それぞれの専門医が在籍の各連携施設にご紹介いたします。

2019年7月22日から手術を再開しました。

3. 診療実績

(1) 外来診療

月・水曜日は2診療体制、その他は1診療体制で外来診療を行っています。午後は視野など含め検査やレーザー治療などを中心に行っています。

(2) 外来患者数(2019年4月～2020年3月)

実患者数	延べ患者数
3,088人	8,482人

(3) 手術(観血的)

2019年7月22日からは、毎週月曜日(午後のみ)手術を行っています。白内障・緑内障が中心ですが、引き続き抗VEGF抗体硝子体注射も行っています。特に緑内障に関しては、最近、注目されてきている「より負担の少ない最小侵襲緑内障手術(MIGS)」だけでなく、白内障+緑内障同時手術も積極的に施行しています。

規模的制約があるため、角膜(内皮)移植や硝子体手術などの、より専門的で高度な設備が必要なケースは、各疾患の専門医が在籍している連携機関(大学病院など)にご紹介しています。

術 式	症例数(のべ)
白内障	56件
緑内障	22件
白内障+緑内障 (同時)	17件
その他	5件
硝子体注射	66件
レーザー	70件

(2019年7月22日～2020年3月31日)

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

スタッフを含め、東京都・埼玉県など近隣の教育・研修会などに積極的に参加しています。

耳鼻咽喉科

1. 医師体制

役職名等 氏名(P207参照)

部長 越智 篤

2. 概要、特徴、特色

2018年4月より一般的な耳鼻科の病院診療(診断、外来治療、入院治療、手術治療)をひろくカバーする科となっています。

3. 診療実績

(1) 外来診療

月曜から土曜日まで午前は2診で外来診療を行っています。月曜日と木曜日の午後は全身麻酔の手術、火曜日と金曜日の午後は局所麻酔の手術やエコー下穿刺細胞診などを行っています。

(2) 手術

各部署(外来看護科・地域連携課・C2病棟看護科・麻酔科・手術室看護科)と協力して、耳鼻科手術ができる体制を一步一步構築し、2019年7月より徐々に耳鼻科全般の手術を開始しています。2020年3月現在、頭頸部癌をのぞく広い範囲の耳鼻科手術を行っています。また、2020年4月より手術日が月曜日の午後と水曜日の午前に変更となり、耳鼻科手術数の増加が見込まれていましたが、COVID-19対応のため手術は準緊急以外施行しておりません。現在、全国的に耳鼻科手術の中止を勧告されておりますが、感染収束局面とともに学会から再開の目安が出しだい耳鼻科手術を再開する予定です。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 教育・研修

医局会にて上部消化管内視鏡施行医のための「鼻の解剖と鼻出血予防について」の講義を行いました。今年度より初期研修医の耳鼻科研修を受け入れました。(救急科もしくは内科研修中に週一日程度耳鼻科研修を実施しています。)

(2) 学術・研究等の発表(P180参照)

4月	気管支拡張症の副鼻腔病変
12月	加齢性難聴を正しく知ろう
2月	鼻アレルギーの治療戦略

5. 次年度に向けて

COVID-19流行にともない、耳処置・鼻処置・経鼻の喉頭内視鏡・ネブライザー・耳鼻科手術全般の感染防御上の扱いがおおきくかわりました。この1～2年の社会の大きな変化と同様に、感染収束後の耳鼻咽喉科診療の形も大きく変わるものと思われます。あらたな感染防止基準を順守し耳鼻咽喉科診療現場での水平感染を防ぐとともに、流行前からかわらない医療水準を保持していきたいと考えます。

KCODE	手術名	件数
K005\$	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部)	2
K013-21	全層植皮術(25cm ² 未満)	1
K2862	外耳道異物除去術(複雑なもの)	1
K287	先天性耳瘻管摘出術	2
K292	外耳道腫瘍摘出術(外耳道真珠腫手術を含む。)	1
K300	鼓膜切開術	2
K309	鼓膜(排液、換気)チューブ挿入術	8
K3191	鼓室形成手術(耳小骨温存術)	3
K331	鼻腔粘膜焼灼術	5
K333	鼻骨骨折整復固定術	1
K340	鼻茸摘出術	2
K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型(選択的(複数回)副鼻腔手術)	14
K342	鼻副鼻腔腫瘍摘出術	1
K347-3	内視鏡下中隔手術I型(骨、軟骨手術)	1
	内視鏡下鼻中隔手術1型(骨、軟骨手術)	3
K347-5	内視鏡下鼻腔手術1型(下鼻甲介手術)	2
K347-6	内視鏡下鼻腔手術2型(鼻腔内手術)	2
K352-3	副鼻腔炎術後後出血止血法	1
K367	咽後膿瘍切開術	1
K370	アデノイド切除術	6
K3772	口蓋扁桃手術(摘出)	12
K3892	声帯ポリープ切除術(直達喉頭鏡によるもの)	2
K401	気管口狭窄拡大術	2
K403-23	嚥下機能手術(喉頭気管分離術)	1
計		76

精神科

1. 医師体制

役職名等 氏名(P207参照)

部長 雪田 慎二

医長 荻野マリエ

※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

埼玉協同病院の精神科は1986年に開設されました。当初は精神科非常勤医師1名の体制で始まり、1993年からは常勤化され、30年近くが経過しました。現在は常勤医師2名の体制で診療を行っています。

長らく日本の精神医療は、単科精神病院での入院治療を中心に展開されてきました。しかし、1970年代以降は地域の中で生活しながら治療を受けることが重要視されるようになり、現在は、地域の中に数多くの精神科クリニックが開設され、以前と比べて精神科医療は数居の低い存在となっています。一方で、総合病院における精神科医療は大きく広がることはなく、総合病院精神科の必要性が周知されつつある現在でも、常勤医師が複数名所属する病院は非常に少ないのが現状です。

当院は総合病院に開設された精神病床を持たない精神科として以下のような特徴をもった医療を展開しています。

まず第一に、当院が地域の第一線の医療機関であることから、高齢者から若い方(概ね高校生以上)まで幅広い年齢層の患者を受け入れています。精神科入院医療を必要とするような重症例は受け入れることはできませんが、うつ病、不安障害、アルコール性依存症、認知症、慢性期の統合失調症など幅広い疾患を受け入れています。

第二には、身体疾患の治療をしながら精神科医療を提供できることも特徴です。特に高齢期には身体疾患に加え、認知症やうつ状態の合併も多く、こころと体の問題を総合的に診ていくことで質の高い医療が提供できます。

第三には、最近では出産子育ての過程で精神的に不安定となる方や、あるいは精神疾患をもともと抱える中で出産子育てをする方も増えてきており、産婦人科、小児科などとも連携をとりながら家族全体の生活を支援していくことも大切な活動となっています。

前記のような特徴を生かし発展させるために、地域住民、他の医療機関、行政、地域の福祉施設などとの連携を強める活動も行っています。

3. 診療実績

(1) 外来診療

①再来:月曜日～金曜日、1-2診体制、実患者数947人、
延べ患者数7,983人

②新患:月曜日、2人/週、実患者数140人

③精神科デイケア:月曜日～金曜日、登録者数38人、
延べ利用者数2,067人

④被ばく相談外来:第1火曜日、放射線被ばくによる健康問題の相談援助

(2) 病棟診療

①他科の入院患者への精神科医療の提供。他職種によるチーム活動。

1) 緩和ケアチーム(P174参照)

2) 認知症ケアチーム(P179参照)

3) 精神科リエゾンコンサルテーションチーム(P179参照)

②緩和ケア医療(病棟スタッフとして診療)

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 精神科多職種カンファレンス 毎週月曜日

(2) 精神科抄読会 毎週木曜日または金曜日

(3) 講演活動等(P188参照)

5月 ・志木市ケアマネ研修会

2月 ・アルコール依存症

5. 次年度に向けて

デイケアは他院所管理の患者も積極的に受け入れています。また、院内チーム活動の強化を行います。

リハビリテーション科

1. 医師体制

役職名	氏名(P207参照)
部長	稲村 充則
副部長	野口 周一

※他科と重複している場合があります

2. 概要・特徴・特色

患者・家族の意向を大切に早期から生活を見据えた退院支援(意思決定支援)を多職種協働で、脳血管疾患(脳卒中後)や骨・感染疾患(整形外科手術後など)を中心に診療しています。

技術はもちろんですが、患者さんがリハビリテーションの主体者として取り組むためのサポートを日々行っています。

3. 回復期リハビリテーション病棟

(1) 医師体制

役職名	氏名(P207参照)
医長	野口 周一
医員	高石 光雄

※他科と重複している場合があります

(2) 特徴

急性期病棟からの転科の患者さんとともに他の病院から紹介された患者さんも多く入院しています。入院中、併存疾患の悪化などにより、急性期治療が必要になることもありますが、他科との相談はしやすく、連携が図れ、円滑な治療を行っています。また、精神科や人工透析もあり、他院の回復期病棟では治療ができない患者さんを受け入れるも可能となっており、守備範囲が広く大切な役割を地域で担っています。

(3) 2019年度の実績

(単位:年)

入院患者数	293人
(その内、転科入院患者数)	(152人)
(その内、紹介入院患者数)	(141人)
在宅復帰率	88.1%
占床率	94.5%
平均在院日数	56.5日
患者一人あたりのリハビリ単位数	5.95単位/日

回復期リハビリテーション病棟入院料1算定。

(4) 疾患別割合

脳血管疾患	脳出血	38人	13.0%
	脳梗塞	105人	35.8%
	くも膜下出血	5人	1.7%
骨・関節疾患	人工関節	53人	18.1%
	下肢骨折	48人	16.4%
	脊椎・骨盤	29人	9.9%
廃用症候群		6人	2.0%
脊髄損傷		5人	1.7%
下肢切断		2人	0.7%
その他		2人	0.7%

(期間:2019年4月～2020年3月)

(5) カンファレンスの開催

- ①職種:医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士、管理栄養士、MSW
- ②カンファレンスの開催 1回/週
- ③家屋調査の実施数 113回

麻酔科

1. 医師体制

役職名等 氏名(P207参照)

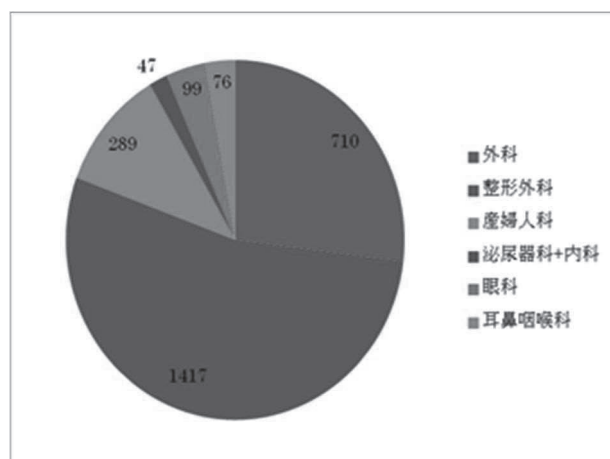
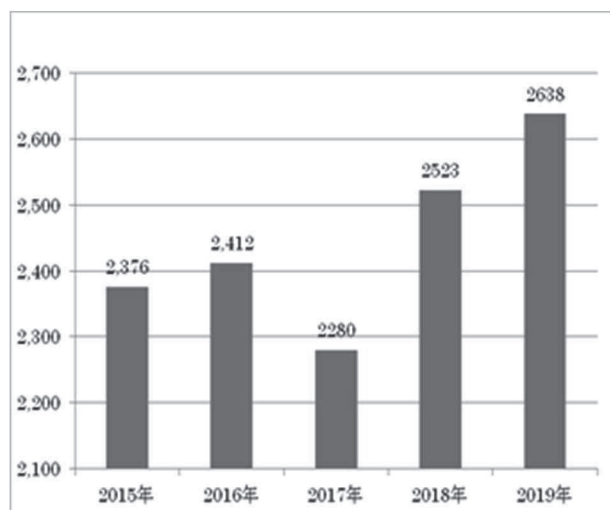
部長	西川 毅
科長	黒羽根 朋子
医長	金子 吾朗
医員	岩切 裕子
非常勤	8名

初期研修医は適宜受け入れており、医長の金子吾朗医師を中心に指導しています。

2. 概要、特徴、特色

(1) 手術室

2019年の総手術件数は2,638件、そのうち麻酔科管理は2,050件(77.7%)でした。症例件数では、金子吾朗先生の復帰により、緊急帝王切開の待機が可能となり、また各種ブロック麻酔も増えました。



(2) 外来診療

① 酔科外来

2006年5月より始まった外来は、術前診察目的で月曜日・土曜日の週2日行っています。2010年にF棟が完成し、2階で麻酔科外来を行っています。3診中2診で看護師の問診を行い、1診で医師の診察を行っています。

2019年の麻酔科外来総患者数は1,813人でした。

② ペインクリニック

2016年4月から、毎週水曜日に東京女子医科大学の畔柳綾医師にお越しいただき、金子吾朗医師と2人で診察を行っています。三叉神経痛、頸椎症、頸椎ヘルニア、肋間神経痛、腰部脊柱管狭窄症、腰椎ヘルニアなど、対象は痛み全般です。薬物治療、局所麻酔によるブロック、透視下ブロック、高周波熱凝固治療等施行しています。

2019年度の患者数は918人でした。

③ 術前術後回診

予定手術の術前回診のほとんどは麻酔科外来で済まされていますが、緊急、準緊急症例は病棟訪問しています。

3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学会・研究会等の発表(P180参照)

9月	・周術期管理チームセミナー 麻酔器と医療用ガス配管
----	---------------------------

病理診断科

1. 医師体制

役職名等	氏名 (P207 参照)
部長	石津 英喜
産婦人科副部長	芳賀 厚子
消化器内科医員	大石 克巳
非常勤	江石 義信、北野 元生
※他科と重複している場合があります	

2. 概要、特徴、特色

常勤医1名と非常勤医2名の病理医が診断を行っています。難しい症例は東京医科歯科大学より週1回指導をしていただき、慎重に最終診断をしております。内視鏡の病理診断については日本消化器内視鏡学会専門医にも診断に加わっていただき精度の向上に努めております。

細胞診断では日本臨床細胞学会で認定を受けた5名の細胞検査士とともに診断を行っています。特に婦人科細胞診では、産婦人科臨床医でもある細胞診専門医との緊密な協力の下に診断にあたっています。

当院の特徴として病理診断管理加算を算定するために病理診断以外の勤務を制限する体制はとっておりません。病理専門医であっても当直、外来、内視鏡検査などをしながら病理診断管理加算以上の貢献ができる勤務体制や、病理診断をしながら臨床能力も高め続けることのできる病理医の養成に努めています。

3. 診療実績

(1) 検体数の推移

	解剖数	生検数	細胞診数
2012年	14	6,989	6,937
2013年	8	7,138	6,982
2014年	9	7,136	6,923
2015年	12	6,147	7,405
2016年	20	5,955	7,503
2017年	8	5,930	6,436
2018年	14	5,551	6,266
2019年	11	5,145	6,236

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 認定施設

日本病理学会研修認定施設B
日本臨床細胞学会教育研修施設
日本臨床細胞学会認定施設

(2) 症例検討

病理科内での症例検討会 週1回
消化器カンファレンス 週1回
CPC(臨床病理検討会) 医局主催で月1回
乳腺カンファレンス 週1回

(3) 講演会活動等 (P188参照)

5月	症例提示
10月	症例提示
1月	症例提示

(4) 著書・論文・寄稿等 (P194参照)

病理クイズ 50歳代女性の胃粘膜下腫瘍

5. 次年度に向けて

2020年度に、レポートシステムが更新しており、なお一層臨床へわかりやすい結果返しに努めて参りたいです。

2019年病理統計 <法人内院所別統計>

院所名	検体数	主な病変(疑い含む)
浦和民主診療所	上部消化管生検 120	胃癌10、胃腺腫8、十二指腸癌1、アニサキス1
川口診療所	上部消化管生検 23	胃腺腫1
さいわい診療所	上部消化管生検 107	食道扁平上皮癌2、胃癌6、胃腺腫5、
埼玉協同病院		4,059(下記参照)
大井協同診療所	上部消化管生検 75	食道扁平上皮癌2、胃癌3、胃腺腫2、十二指腸腺腫1
埼玉西協同病院	上部消化管生検 152	食道扁平上皮癌3、胃癌12、胃腺腫4 大腸癌16、大腸内視鏡切除 97 件(粘膜内癌 6)
	下部消化管生検 146	
	皮膚生検 1 計 299	
所沢診療所	上部消化管生検 20	胃癌3、胃腺腫1
行田協立診療所	上部消化管生検 32	胃腺腫1、十二指腸腺腫1
熊谷生協病院	上部消化管生検 78	食道扁平上皮癌1、胃癌9、胃腺腫2、
秩父生協病院	上部消化管生検 77	食道扁平上皮癌2、胃癌3、十二指腸腺腫1
おおみや生協診療所	上部消化管生検 130	食道扁平上皮癌2、胃癌7、胃腺腫6
かすかべ生協診療所	上部消化管生検 124	食道扁平上皮癌1、胃癌7、胃腺腫9、
計	5,145	

<埼玉協同病院 4,059件>

科・種類	件数	主な病変
上部消化管 EMR+ESD	47	食道扁平上皮癌3 胃癌-42(三重癌1、二重癌3、SM 浸潤3)、胃腺腫-1、胃過形成ポリープ-1
上部消化管 生検	896	咽頭癌1、食道上皮内癌-23。食道上皮内腫瘍疑い含め-6、食道顆粒細胞腫1、 胃 group5-76、group4-21、group3-37、group2-30、NET1、好酸球性胃腸症2、胃 NET-2、 転移疑い1、
下部消化管 EMR	526	癌-71(SM 浸潤癌5)、腺腫-454(複数同時切除も 1 件として数えてあります)、直腸カルチノイド 1
下部消化管 生検	444	Group5-116、group4-6、group3-143、悪性リンパ腫1、直腸カルチノイド-1、平滑筋腫1 潰瘍性大腸炎-疑い含め(約56)
肝胆膵生検	48	自己免疫性肝炎-3、肝転移3(未分化癌1、小細胞癌1)、肝門部リンパ節転移1、悪性リンパ腫2 腺癌20(胆管癌10、膵癌10)
肺・胸膜生検	54	肺生検(扁平上皮癌4、腺癌-6、小細胞癌-2、組織型不明1)、中皮腫1、
リンパ節	17	悪性リンパ腫(DLBCL5、血管免疫芽球型 T 細胞性1、NK/T1、末梢型 T 細胞性1、免疫抑制剤 関連1、未分化大細胞型1、組織型不明1、転移1(乳癌疑い)、反応性5
骨髄生検	37	骨髄腫-3、ITP-1、再生不良性貧血-4、骨髄増殖性疾患(本態性血小板血症5、多血症1、骨髄 線維症1)、MDS-1、巨赤芽球性貧血1、白血病4、悪性リンパ腫1(いずれも疑い含む)
婦人科生検	663	頸部生検(SIL183、扁平上皮癌(浸潤疑い)6、上皮内腺癌疑い2、腺癌1) 内膜生検(増殖症47、異型増殖症10、腺癌-14)、 Mole(疑い含め3)
婦人科手術	158	円錐切除46 子宮79(異型増殖症3、異形成8) 卵巣良性34(デルモイド12、内膜症7、粘液性3、漿液性4、混合性1、線維腫2、平滑筋腫1)、 粘液境界悪性1、カルチノイド1、子宮外妊娠3

科・種類	件数	主な病変
外科	手術 485 + 乳腺生検 178	乳癌67、乳腺針および生検(悪性92、境界病変7、良性78) 胃 GIST1、十二指腸 GIST1、胃癌22、小腸癌2、小腸リンパ腫1、大腸癌88、虫垂炎78、粘液囊腫2、胆嚢(良性)143、胆嚢癌2、胆管癌3、十二指腸乳頭癌3 膵癌-1、膵 IPMN2。胃 NEC1、肝臓(転移10、HCC8、ICC1、炎症1、血管腫1、リンパ濾胞1)、腹腔内デスマイド1、 脾臓過誤腫1、ITP 脾摘1、脾臓リンパ増殖性1、副脾1、メッケル憩室4 大腸憩室炎6、捻転および絞扼6、大腸穿孔4、小腸穿孔1、腸間膜膿瘍1、 肺癌19(腺癌5、扁平上皮癌2、転移(大腸癌7、乳癌2、不明2)、胸膜播種1 肺良性(肺ブラ切除4、肺の炎症病変1)
皮膚科	357	粉瘤85、母斑28、基底細胞癌8、ボーエン病11、扁平上皮癌4、皮膚リンパ腫3、Paget 病1、血管肉腫1、菌状息肉症1、転移1(肺癌)
整形外科	35	乳房細胞癌骨転移1、甲状腺癌大腿骨転移1、大腿部未分化多型肉腫1
耳鼻科	114	甲状腺乳頭癌1、耳下腺腺腫1、外耳道悪性黒色腫疑い1、リンパ腫3、扁平上皮癌7(喉頭2、咽頭3、鼻中隔1、舌根1)

<解剖例>

	臨床診断	病理診断
2019-1	肺炎治療後、心不全	右肺気管支肺炎、肺気腫、低栄養状態
2019-2	敗血症、多臓器不全(呼吸不全、腎不全、肝不全)、アルコール性肝障害	敗血症(両腎・心筋・前立腺・縦隔リンパ節の微小膿瘍・左腰部後腹膜膿瘍)、気管支肺炎、アルコール性肝硬変
2019-3	糖尿病性腎症による維持透析状態、両下肢壊疽切断後	糖尿病性腎症、両下肢切断後の状態、全結腸の炎症性変化、腓尾部に嚢胞性病変(IPMA)、肺水腫
2019-4	心肺蘇生後の状態、拡張型心筋症疑い、慢性腎不全(透析状態)、胆のう炎	心肺蘇生後の状態、拡張型心筋症、慢性腎不全終末期状態(透析状態)、胆のう炎
2019-5	右胸水貯留、肺癌疑い	右肺腺癌、癌性リンパ管症、両側肺門リンパ節転移、左肺転移、左副腎転移
2019-6	胃 GIST 術後再発、肝転移、腹膜播種	膵体尾部癌(低分化腺癌)、腹膜播種、胃 GIST 術後・肝転移治療後寛解状態
2019-7	癌性腹膜炎、腹水貯留、原発不明	子宮頸部腺癌(通常型内頸部型腺癌)、癌性腹膜炎
2019-8	門脈内ガス血症、消化管穿孔疑い、冠動脈ステント治療後	空腸の絞扼性イレウス、陳旧性心筋梗塞(冠動脈ステント治療後)、肝左葉に肝内胆管炎、門脈内ガス血症、右頸動脈および両側総腸骨動脈に閉塞性動脈硬化症
2019-9	肝硬変、左上半身皮下出血	アルコール性肝硬変症、アルコール性慢性膵炎、左上半身皮下出血
2019-10	敗血症、出血性胃潰瘍治療後、腹部大動脈瘤	下行-S状結腸の壊死、腹部-腰部大動脈瘤、胃潰瘍内視鏡的止血治療後
2019-11	汎発性腹膜炎、アルコール性慢性膵炎	細菌性腹膜炎、上行結腸穿孔、慢性膵炎による膵管内膵石充満

臨床検査科

1. 医師体制

役職名等	氏名(P207参照)
病理科部長(兼任)	石津 英喜

2. 概要、特徴、特色

過去には臨床検査科部長が常勤で勤務されていた時期があり、当時は検体管理加算(Ⅳ)に準じて検体検査全般の管理運営を専従する医師が携わっていましたが、前部長の退職にともなって検体管理加算(Ⅱ)に変更となり、臨床検査を担当する常勤医を一名置配置する状態に留まっております。

医師の配置は縮小してしまいましたが、臨床検査技師の人員および検査内容については以前同様検体検査加算(Ⅳ)の基準に十分耐える重厚なものとなっております。

定期的な精度管理、外部精度管理、臨床検査の適正化委員会を設置して、常に臨床検査各部門の精度の維持、向上に努めております。

臨床検査技師各位が十分な検査を行う体制にありますので、スタッフあげて患者様の利益につながるよう速く・正しいデータの提供ができるよう常に努力いたしております。

当院では臨床検査科単独で業務をこなしていくというよりも、各委員会や各プロジェクトチームに所属して他部門と相談の上でよりよい検査内容が行えるようチーム医療に心がけております。

3. 診療実績

尿一般	41,637	
生化学	70,572	
心電図	11,894	
トレッドミル	139	
ホルター心電図	927	
心エコー	3,545	
頸動脈エコー	1,641	
甲状腺エコー	338	
下肢エコー	423	
耳鼻科領域検査	2,612	
肺機能検査	2,625	
眼底検査	133	
病理	婦人科細胞診	3,972
	一般細胞診	2,196
	検体材料組織	3,243
	手術材料組織	757
細菌	一般細菌培養	30,232
	抗酸菌培養	3,396

4. 次年度に向けて

常勤の臨床検査専門医の配置を検討中です。チーム医療の一員として、感染対策・医療安全・栄養サポート・患者教育・地域の保健医療活動・コンサルテーション業務など多岐にわたる臨床検査科の活動の発展に期待してください。

放射線科

1. 医師体制

役職名等	氏名(P207参照)
部長	吉田 英夫
医長	岡崎 百子
非常勤	5名

2. 概要、特徴、特色

常勤医2名および非常勤医師で、CT、MRIを中心とした画像診断、読影を行っています。

画像診断管理料Ⅰ、画像診断管理料Ⅱ、遠隔画像診断Ⅱ等を加算しています。各診療科、各主治医との連携を密に適正な検査および迅速な診断を行っています。

3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

定期的に研修医・若い放射線技師に対して、CT画像、MRI画像の診断をはじめ、放射線の基本的なことを教育・研修しています。

4. 次年度に向けて

2020年4月より常勤医3名、非常勤医3名になる予定です。

健康増進センター

1. 医師体制

役職名等	氏名(P207参照)
健診センター長	小池 昭夫
医長	照井 幸雄
非常勤	29名

※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

特定健診、保健指導、一般健康診断、事業所健診の他、埼玉県労働局の委託を受けて健康管理手帳所持者のじん肺・石綿健康診断を行っています。

3. 実績

(1)健康診断数(2019年4月～2020年3月)

健康づくり健診	313件
特定健診	3,633件
被ばく者健診	68件
国保ドック	2,412件
医療生協さいたまドック	849件
じん肺健診	149件
事業所健診	10,487件
協会けんぽ	6,136件
職員健診	1,833件
上記以外の健康診断	5,132件
合計	31,012件

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)講演会活動等(P188参照)

2月	健診センターと地域医療
7月	衛生推進者要請講習
1月	産業医から見た教員の健康・環境問題

5. 次年度に向けて

- (1)じん肺・アスベスト外来の充実を図ります。
- (2)じん肺・アスベスト関連する会議の定期開催をめざします。